



足立区

令和7年度(令和6年度事業実施分)

足立区教育委員会

の権限に属する事務の
管理及び執行状況

点検・評価報告書

足立区教育委員会
教育政策課
(令和7年11月発行)

第1章 評価概要

| | |
|------------|----|
| ・ はじめに | 3 |
| ・ 評価サイクル | 6 |
| ・ 自己評価について | 7 |
| ・ 外部評価について | 11 |

第2章 評価シート

| | |
|-----------------------------------|----|
| ・ 評価シートの見方 | 17 |
| 施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実 | 20 |
| 戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談 | 21 |
| 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援 | 29 |
| 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進 | 43 |
| 戦略4 いじめの早期発見・早期対応 | 55 |

第3章 評価シート(実績値)

| | |
|-----------------------------------|----|
| 施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援 | 60 |
| 施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み | 72 |
| 施策4 快適に学べる教育施設の整備と運営の充実 | 84 |
| 施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援 | 98 |

第1章 評価概要

はじめに

令和2年3月、足立区では、教育基本法に規定する「教育振興基本計画」として、「足立区教育振興ビジョン」を策定しました。

本計画では、区の教育行政として取り組むべき施策・事業について、毎年度のPDCAサイクルに基づく進行管理により、より効率的・効果的かつ着実な成果をめざすこととしています。

なお、評価初年度にあたる令和3年度は足立区教育振興ビジョンに示す全ての施策・事業の令和2年度実績を対象に、各所管の「自己評価」と点検・評価委員（外部有識者）による「外部評価」を行いました。

令和4年度からは点検・評価の位置付けをP4のとおり変更するとともに、より深い点検・評価が実施できるよう、表1のとおり各年度の評価対象を絞り、令和4年度から7年度までの4年間で全ての施策を2回評価していきます（※1）。

表1 点検・評価スケジュール

| | R4 | R5 | R6 | R7 |
|-----------------------------------|----|----|----|----|
| 施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援 | ○ | ○ | | |
| 施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み | | ○ | ○ | |
| 施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実 | | ○ | | ○ |
| 施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実 | ○ | ○ | | |
| 施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援 | | ○ | ○ | |

➡ **令和7年度評価対象**

- ・ 施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実（4戦略）

※1 令和4、6及び7年度の評価対象外となった施策についても進捗管理のため、指標の達成度を算出することとします

<位置付けの変更>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条において、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価することが義務付けられています。この点検及び評価の実施について、以下のとおり変更します。

1 令和3年度

(1) 教育委員会の点検及び評価(地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条)

教育委員が当該年度のテーマ事業の視察後に実施する自己評価と、行政評価を代用した外部評価により実施

(2) 「足立区教育振興ビジョン」の点検・評価

「足立区教育振興ビジョン」の策定に伴い、法律に基づく点検及び評価とは別に、計画に示す指標に基づき、前年度の実績を対象に評価を実施

2 令和4年度以降

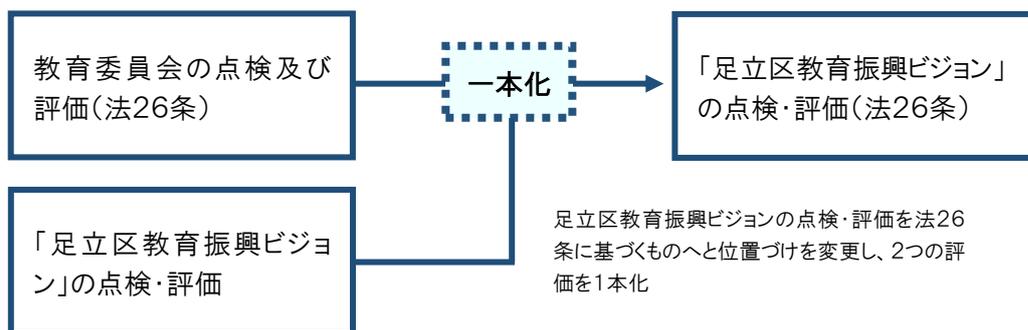
以下の理由から、「足立区教育振興ビジョン」の点検・評価の位置づけを、法律に基づく「点検及び評価」へと変更し、上記2つの評価を1本化(図1)した。

- ① 「足立区教育振興ビジョンの点検・評価」は、教育に関する施策・事業の大半が対象となっている点など「点検及び評価」として十分に機能すること
- ② 外部有識者の知見を活用していること

図1 位置付け変更図

令和3年度

令和4年度以降



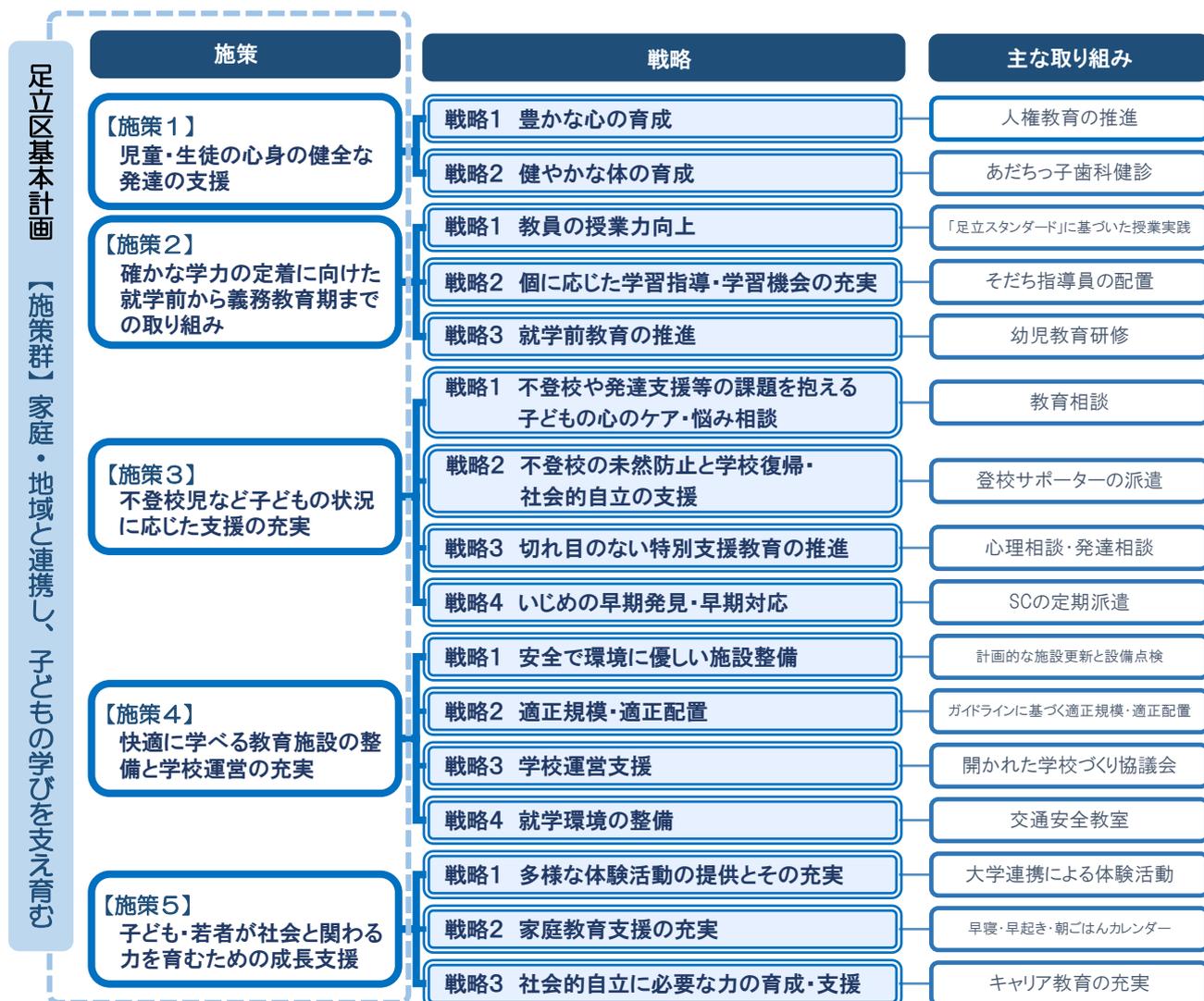
【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

- 第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

<足立区教育振興ビジョンの体系図>

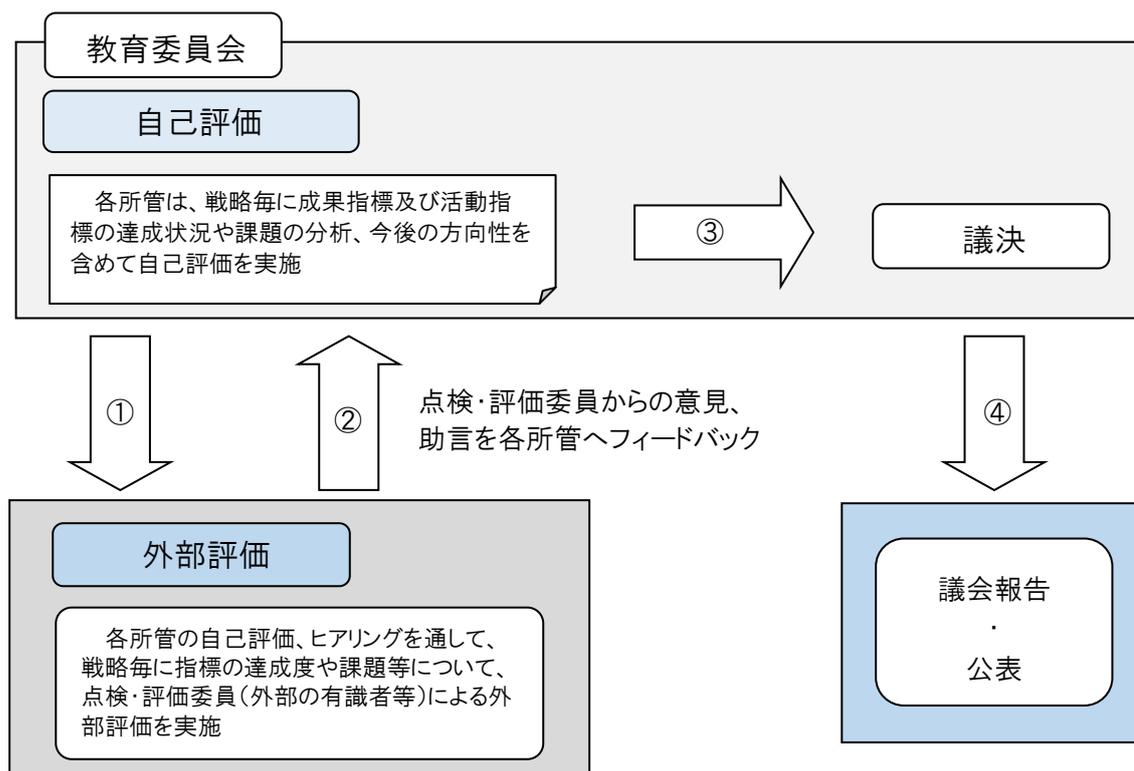
本計画は、「足立区基本計画」の分野別計画の一つで、施策群1「家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む」に分類されている5つの教育施策について、各施策を実現するための「戦略」と、戦略ごとの具体的な取り組みを示す構成で体系的に整理しました。



評価サイクル

各所管による①自己評価を実施後、外部有識者である点検・評価委員がこれを基に外部評価を実施します。これらを報告書としてとりまとめた後、各所管の来年度以降の予算編成や事業改善のために②フィードバックを行います。③その後、教育委員会の議決に付し、議決を得られた際は、④議会に結果を報告するとともに、区ホームページ上に公表します。

自己評価についての詳細はP7、外部評価についての詳細はP11をご覧ください



自己評価について

1 自己評価の流れ

各所管は戦略毎に、以下の流れで自己評価を行いました。

- (1) 指標の実績値や達成状況
当該戦略の達成度を測る「成果指標」及び、戦略に沿った各事業の活動量・活動結果を測る「活動指標」の実績値や達成状況を算出しました。
- (2) 指標分析
(1)を踏まえて、①実績値及び達成状況の結果②実績値、達成率へ至った要因の分析、③前年度の外部委員からの評価・助言を事業にどう反映させたかなどの視点から指標を分析しました。
- (3) 課題と今後の予定、方向性
(2)を踏まえ、①前年度に生じた課題や目標達成への障害など、②今後、課題をどのように解決を図るか、そのための具体的な方法や手立てと、③今後の方向性を検討しました。
- (4) 自己評価(活動指標のみ)
基準表1を参考に、(1)から(3)を踏まえ、A、B⁺、B、C、C⁻、D、Eの7段階評価を実施しました。なお、基準表()内の達成率は目安となっています。

基準表1 自己評価基準表(各所管が自己評価をする際の目安として活用します)

| A | B ⁺ | B | C | C ⁻ | D | E |
|---------------------------|------------------------|---------------------|----------------------|-----------------------|--------------------------|--------------------------|
| 目標を大きく上回った (達成率140%以上) | 目標を上回った (達成率120%以上) | 目標通り (達成率100%以上) | 概ね目標通り (達成率90%以上) | 目標を下回った (達成率70%以上) | 目標を大きく下回った (達成率50%以上) | 目標を著しく下回った (達成率50%未満) |

2 自己評価結果

- (1) 結果概要
 - ア 令和7年度は、施策1から5に掲げる全ての指標のうち、達成率70%未満の成果指標は昨年度7%から12%となり、活動指標は昨年度同様の15%となりました。成果指標については、施策3で達成率70%未満の指標が、前回4指標から8指標になったことが影響しました。
 - イ 各所管は当該年度の活動実績に対し、56%が「目標通り実施できた」のB評価以上と評価しており、令和6年度(※1)よりもB評価以上が約12ポイント上がりました。
 - ウ 活動実績は自己評価「概ね目標通りできた(90%)」のC評価以上で79%の一方、成果指標は、達成率90%以上が69%と、活動実績については全体としては目標通りでしたが、成果は十分とは言えない状況となりました。

※1 令和6年度は施策2及び5を対象に評価を行ったが、令和7年度は施策3を対象に評価を行ったため単純比較はできない

エ 目標通りとならなかった成果のうち、今回、点検・評価を行った施策3では、事業の方向性や事業内容に課題があったため、伸び悩んだ指標がありました。

(2) 自己評価結果一覧

ア 令和7年度自己評価結果一覧表

P7の基準表1を参考に指標の実績値のほか、指標分析等を踏まえて所管の判断で行う自己評価をまとめたものです。

| 施策名・戦略名 | 活動指標数 | | | | | | | | | 計 | ページ |
|------------------------------------|-------|------|------|------|------|-----|---|------|---|-----|-----|
| | A | B+ | B | C | C- | D | E | 評価不能 | | | |
| 【施策3】 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実 | | | | | | | | | | | |
| 戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談 | 1 | 2 | 2 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 21 |
| 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援 | 4 | 3 | 0 | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 13 | 29 |
| 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進 | 2 | 1 | 4 | 1 | 2 | 3 | 0 | 0 | 0 | 13 | 41 |
| 戦略4 いじめの早期発見・早期対応 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 53 |
| 【集計】 | | | | | | | | | | | |
| 活動指標数 | 11 | 6 | 6 | 8 | 4 | 3 | 0 | 0 | 0 | 38 | |
| 割合(%) | 28.9 | 15.8 | 15.8 | 21.1 | 10.5 | 7.9 | 0 | 0 | 0 | 100 | |

表の見方

数値は活動指標数を示しています。

例えば、施策3の戦略2に掲載している活動指標(計13指標)の中で、自己評価をB+評価としたものが3指標、Cが4指標、C-が2指標であったことを示しています。

新規設定指標のうち、目標値設定が困難で評価不能となっているものがあります。

イ 指標の達成状況一覧

成果指標および活動指標の達成率を示したものです。

こちらは施策1から施策5までの全ての指標の集計となっています。

| 達成率 | 活動指標 | | 成果指標 | |
|--------|------------|------------|------------|------------|
| | 166指標(159) | 比率(%) | 114指標(108) | 比率(%) |
| 50%未満 | 11(9) | 6.6(5.7) | 7(2) | 6.1(1.9) |
| 50%以上 | 14(15) | 8.4(9.4) | 7(5) | 6.1(4.6) |
| 70%以上 | 21(19) | 12.7(12.0) | 10(12) | 8.8(11.1) |
| 90%以上 | 33(39) | 20.0(24.5) | 52(50) | 45.6(46.3) |
| 100%以上 | 68(59) | 41.0(37.1) | 25(28) | 22.0(25.9) |
| 120%以上 | 3(6) | 1.8(3.8) | 2(4) | 1.8(3.7) |
| 140%以上 | 11(8) | 6.6(5.0) | 2(3) | 1.8(2.8) |
| 測定不可 | 5(4) | 3.0(2.5) | 9(4) | 7.9(3.7) |

()内は昨年度の数値

表の見方

表の見方

- 1 成果指標・活動指標それぞれの令和6年度実績の目標値に対する達成率の分布を示しています。
- 2 成果指標と活動指標の関係ですが、複数の活動を行うことで、1つの成果につながるものもあるため、必ずしも対になっているわけではありません。
- 3 比率は、四捨五入しているため、その合計値は必ずしも100にはなりません。
- 4 令和7年度点検・評価では主に施設に関するもので、既に完了済や計画の後ろ倒しにより活動指標は5指標、成果指標は9指標が測定不可となりました。
- 5 指標の新規設定等により指標数は昨年度と今年度とで異なります。

外部評価について

1 外部評価の流れ

点検・評価委員は、以下の流れで指標の達成度や課題等について、戦略毎に外部評価を実施しました。

【令和7年度点検・評価委員】

＜不登校施策、特別支援教育分野＞ 名古屋市立大学大学院 米川 和雄准教授

(1) 自己評価シートの確認とヒアリングの実施

点検・評価委員は、各所管が作成した自己評価シートを確認するとともに、疑問点の確認など、点検・評価に必要な情報を聞き出してもらうため、所管とのヒアリングを実施しました。

(2) 評価の実施

点検・評価委員は、(1)を踏まえ、以下のとおり評価を行いました。

ア P12の「基準表1 観点別評価基準表」に示す観点2～4の3つの評価観点から、施策・事業全体に対する意見・提言（昨年度の点検・評価では施策3を対象としていないため、観点1の評価はなし）。

イ 3つの評価観点について、7段階の観点別評価を実施するとともに、P12の「基準表2 全体評価基準表」に基づき、AからEまでの7段階で全体評価を実施。

ウ 全体評価を踏まえて、各自の専門領域の立場から、今後の施策・事業への期待や要望、専門的提言。

基準表1 観点別評価基準表

| 評価 | 評価観点 | | | |
|----|-----------------------------------|---|--|--------------------------------------|
| | ①助言や今後の期待・要望への反映率 | ②目標・成果の達成状況 | ③各取組みが戦略の方向性に沿ったものか | ④児童・生徒にとって真に効果的か |
| 1 | 評価(助言)が全く反映されていない。 (反映率:0%程度) | 多くの取組みに課題があり戦略の目標達成のための成果が出ていない。改善が必要である。 | | 多くの取組みに課題があり、効果的でない。改善が必要である。 |
| 2 | 評価(助言)の反映が消極的である。 (反映率:20%程度) | いくつかの取組みにおいて課題があり、戦略の目標達成に向けた成果があまり出ていない。 | 各取組みが戦略の方向性に合致しておらず、手法の選択も抜本的に見直す必要がある。 | いくつかの取組みにおいて課題があり、あまり効果的ではない。 |
| 3 | 評価(助言)を多少反映した。 (反映率:30%程度) | ・いくつかの取組みにより戦略として成果は概ね出ているが、さらなる努力が必要である。 ・戦略の成果は出ているものの、多くの取組みに課題が見られる。 | 各取組みが戦略の方向性と合わない部分があり、手法の選択もやや課題がある。 | いくつかの取組みにより、概ね効果的ではあるが、改善が必要である。 |
| 4 | 評価(助言)をある程度反映した。 (反映率:50%程度) | ・いくつかの取組みにより戦略として成果は概ね出ているが、さらなる努力が必要である。 ・戦略の成果は出ているものの、課題が見られる。 | 各取組みが戦略の方向性に概ね適切であるが、手法の選択にやや課題がある。 | いくつかの取組みにより、概ね効果的ではあるが、さらなる努力が必要である。 |
| 5 | 評価(助言)を積極的に反映した。 (反映率:70%程度) | 優れた取組みがいくつかあり、戦略の目標達成に向け、成果が出ている。 | 各取組みが戦略の方向性に合致しており、手法も概ね適切である。 | 優れた取組みがいくつかあり、効果的である。 |
| 6 | 評価(助言)をより積極的に反映した。 (反映率:80%程度) | 優れた取組みが多く、戦略の目標達成に向け、成果が出ている。 | 各取組みが戦略の方向性に合致しており、手法も適切であるため推進していく方がよい。 | 優れた取組みが多く、効果的である。 |
| 7 | 評価(助言)以上に反映した。 (反映率:100%以上) | 優れた取組みが多く、戦略の目標達成に向け、十分な成果が出ている。 | 各取組みが戦略の方向性に合致しており、手法も適切であるため積極的に推進すべきである。 | 優れた取組みが多く、非常に効果的である。 |

基準表2 全体評価基準表【施策3は前年度評価対象外であったため、()内の基準で評価】

| | | | | | | | |
|-----------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------|---------------|--------------|
| 評定 合計値 | 28～26 (21～20) | 25～23 (19～17) | 22～20 (16～14) | 19～16 (13～12) | 15～12 (11～9) | 11～8 (8～6) | 7～5 (5～4) |
| 評価 | A | B ⁺ | B | C | C ⁻ | D | E |

2 外部評価結果

(1) 結果概要

ア 令和7年度点検・評価の対象となった全4戦略中、B⁺評価が最も高く2戦略、B評価が1戦略、C評価が1戦略と、C⁻評価以下の評価はありませんでした。

イ 全体評価B⁺を受けたのは施策3-戦略1「不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談」及び戦略4「いじめの早期発見・早期対応」でした。

【評価されたポイント】

<施策3-戦略1「不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談」>

成果指標について、全体的に達成率が高く、その中でも比較的達成率が低い指標も、過去最も高い目標値に対する達成率であるということ、各取り組みについて、戦略の方向性に合致するものが多く、その達成を維持継続させていくことを期待されるべきである、と評価され、観点2及び3で評価6となりました。

なお、各取り組みが児童・生徒にとって真に効果的であるかどうかは、単純な量的目標だけではなく、質の担保・向上という面も重要であり、さらには、義務教育期間だけではなく、その先も見越した支援も必要である、ということから、観点4で評価5となりました。

<施策3-戦略4「いじめの早期発見・早期対応」>

成果指標について、各々の成果に対して課題が示されているが、概ね目標達成に近い水準であること、各取り組みも戦略の方向性に沿っており、担当課が課題意識や展望を持っていることが伺え、数値で示されている以上の情報を持った取り組みへつなげられる可能性があることから、観点2及び3で評価6となりました。

なお、戦略4において、各取り組みが児童・生徒にとって真に効果的であるかどうかは、本成果指標を超えた、人権感覚の醸成が重要であることから、観点4で評価5となりました。

ウ 全体評価Bを受けたのは施策3-戦略3「切れ目のない特別支援教育の推進」でした。

<施策3-戦略3「切れ目のない特別支援教育の推進」>

概ね目標を達成している成果指標がある一方で、達成率65%以下の指標も見られること、各取り組みと戦略の方向性に関しても、一部で継続的な課題が見られることから、観点2及び3で評価5となりました。

また、児童・生徒にとって真に効果的であるかという点においては、教員によっては成果達成に時間を要する目標もあることから、観点4で評価4となりました。

エ 今回の評価で最も低いCの評価を得たのは、施策3-戦略2「不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援」でした。

<施策3-戦略2「不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援」>

前年度に引き続き不登校児童・生徒数は多い実績となっているが、担当課単体の取り組みでは減少させるにも限界があり、学習保障等への対応も課題が見られることから、観点2で評価5となりました。

また、不登校の増加に対して、様々なサービスを活用した支援展開を行っているものの、そのような個別的支援に至るまでの人材確保に課題があり、各取り組みが戦略と合致しない面もあることから、観点3及び4で評価4となりました。

(2) 外部評価結果一覧

ア 令和7年度観点別評価及び全体評価一覧

| 施策名・戦略名 | 観点1 反映率 | 観点2 達成状況 | 観点3 方向性 | 観点4 効果的 | 全体 | ページ |
|------------------------------------|------------|-------------|------------|------------|----|-----|
| 【施策3】 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実 | | | | | | |
| 戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談 | - | 6 / 7 | 6 / 7 | 5 / 7 | B+ | 27 |
| 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援 | - | 5 / 7 | 4 / 7 | 4 / 7 | C | 39 |
| 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進 | - | 5 / 7 | 5 / 7 | 4 / 7 | B | 51 |
| 戦略4 いじめの早期発見・早期対応 | - | 6 / 7 | 6 / 7 | 5 / 7 | B+ | 57 |

昨年度の点検・評価では施策3を対象としていないため、観点1の実績はありません。

イ 全体評価及び各戦略の観点別評価集計表

(ア)全体評価集計表(Aが最高評価)

| 評価 | 全体評価(戦略数) | 割合(%) |
|----------------|-----------|------------|
| A | 0(0) | 0(0) |
| B ⁺ | 2(0) | 50.0(0) |
| B | 1(3) | 25.0(50.0) |
| C | 1(3) | 25.0(50.0) |
| C ⁻ | 0(0) | 0(0) |
| D | 0(0) | 0(0) |
| E | 0(0) | 0(0) |
| 合計 | 4(6) | 100 |

()内は昨年度の数値

(イ)観点別評価集計表(7が最高評価)

| 評価 | 観点1(※3) | | 観点2(※3) | | 観点3(※3) | | 観点4(※3) | | 戦略数 | 割合(%) |
|-----|---------|----------|-----------|-------------|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|-------------|
| | 戦略数 | 割合(%) | 戦略数 | 割合(%) | 戦略数 | 割合(%) | 戦略数 | 割合(%) | | |
| 1 | - (0) | 0 (0) | 0(0) | 0(0) | / | | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) |
| 2 | - (0) | 0 (0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) |
| 3 | - (0) | 0 (0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) |
| 4 | - (0) | 0 (0) | 0(1) | 0 (16.7) | 1(0) | 25.0(0) | 2(4) | 50.0(66.7) | 3(5) | 25.0 (20.8) |
| 5 | - (5) | 0 (83.3) | 2(4) | 50.0 (66.7) | 1(6) | 25.0(100) | 2(2) | 50.0(33.3) | 5(17) | 42.0 (70.8) |
| 6 | - (1) | 0 (16.7) | 2(1) | 50.0 (16.7) | 2(5) | 50.0(0) | 0(0) | 0(0) | 4(2) | 33.3 (8.3) |
| 7 | - (0) | 0 (0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 0(0) |
| 平均点 | - (5.2) | | 5.5 (5.0) | | 5.3 (5.0) | | 4.5 (4.3) | | 5.1 (4.9) | |
| 戦略数 | -(6) | | 4(6) | | 4(6) | | 4(6) | | | |

()内は昨年度(=令和6年度)の数値です。

なお、観点1のみ、令和6年度評価(=対象は施策2及び5の6戦略)での点検・評価委員からの助言に対しどの程度反映させたかを評価する観点であり、施策3は評価対象外であったことから、「-」となっています

※3 観点1から観点4は以下のとおりです。

- ・ 観点1 助言・今後の期待への反映率(前年度評価を受けての反映状況)
- ・ 観点2 目標・成果の達成状況
- ・ 観点3 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか
- ・ 観点4 児童・生徒にとって真に効果的か

第2章 評価シート

評価シートの見方

1 自己評価シート（各所管が作成）

■実績値と目標値の記載

各所管は当該年度の実績値と次年度の目標値を記載

ただし、令和2年度の目標値は既存の計画等で決めていた場合など一部を除き、令和6年度目標値を割り返した数値としている。

また、達成率は実績値/目標値（低減目標の場合は目標値/実績値）としている。

| | |
|-----|-------------------|
| 施策1 | 児童・生徒の心身の健全な発達の実現 |
| 戦略1 | 豊かな心の育成 |
| 施策1 | 児童・生徒の心身の健全な発達の実現 |
| 戦略1 | 豊かな心の育成 |

単位の達成率を測る成果指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | 年度 | | | | | | ■指標分析(達成状況・原因・その他実績等) | ■課題と今後の予定、方向性 | 自己評価 | | | | |
|-----|-------|---|----|-----|------|------|------|------|------|-----------------------|---------------|------|----|--|--|----|
| | | | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | | | | | | | |
| 成果1 | 教育指導課 | 「足立区学力定着に関する総合調査」で小学生及び中学生が「自分にはよいところがあると思う」に肯定的な回答をした割合 | % | 実績値 | 72 | 62 | - | - | - | - | - | - | - | | | |
| | | | | 目標値 | - | - | 72.8 | 63.3 | 73.4 | 64 | - | - | 77 | | | 70 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 0% | 0% | - | - | - | 0% | | | 0% |
| | | | | 実績値 | 93 | 92.3 | - | - | - | - | - | - | - | | | - |
| 成果2 | 教育指導課 | 「全国学力・学習状況調査」で小学6年生及び中学3年生が「人の役に立つ人間になりたいと思う」に肯定的な回答をした割合 | % | 実績値 | 93 | 92.3 | - | - | - | - | - | - | - | | | |
| | | | | 目標値 | - | - | 93.3 | 92.8 | 93.5 | - | - | - | 95 | | | 95 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 0% | 0% | - | - | - | 0% | | | 0% |
| | | | | 実績値 | 86.3 | 93.3 | - | - | - | - | - | - | - | | | - |
| 成果3 | 教育指導課 | 「全国学力・学習状況調査」で小学6年生及び中学3年生が「学校のまわりを守っている」に肯定的な回答をした割合 | % | 実績値 | 86.3 | 93.3 | - | - | - | - | - | - | - | | | |
| | | | | 目標値 | - | - | 86.9 | 93.6 | 87.2 | 93.7 | - | - | 80 | | | 95 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 0% | 0% | - | - | - | 0% | | | 0% |
| | | | | 実績値 | 291 | 130 | - | - | - | - | - | - | - | | | - |

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | 年度 | | | | | | ■指標分析(達成状況・原因・その他実績等) | ■課題と今後の予定、方向性 | 自己評価 | | | |
|-----|-------|--|----|-----|-----|------|-----|------|----|-----------------------|---------------|------|--|------|---|
| | | | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | | | | | | |
| 活動1 | 教育指導課 | 教員対象の人権教育の研修会の参加 <small>小・中学校の割合【参加延べ人数】</small> | % | 実績値 | 100 | 96.3 | - | - | - | - | - | - | | 1 C- | |
| | | | | 目標値 | - | - | 100 | 97.2 | - | - | - | 100 | | | |
| | | | | 達成率 | - | 96% | 0% | - | - | - | 0% | | | | |
| | | | | 実績値 | 291 | 130 | - | - | - | - | - | - | | | - |
| 活動1 | 教育指導課 | 教員対象の人権教育の研修会の参加 <small>小・中学校の割合【参加延べ人数】</small> | 人 | 実績値 | 291 | 130 | - | - | - | - | - | - | | 2 D | |
| | | | | 目標値 | - | - | 294 | 294 | - | - | - | 306 | | | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | - | - | - | | | - |
| | | | | 実績値 | 291 | 130 | - | - | - | - | - | - | | | - |

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)

各所管は、指標の実績値や達成率を踏まえて以下の視点から指標を分析

- ① 実績値及び進捗状況の結果
- ② 実績値・達成率へ至った要因の分析
- ③ 前年度の外部委員からの評価・助言を事業にどう反映させたかなど

■課題と今後の予定、方向性

各所管は「指標分析」を踏まえて以下の内容を記載

- ① 前年度に生じた課題や目標達成への障害など
- ② 今後、これらの課題をどのように解決を図るか、そのための具体的な方法や手立て
- ③ 今後の方向性(見通し)

■自己評価

各所管は活動指標のみ、実績値のほか、指標分析を踏まえ、7段階で評価を実施

| A | B ⁺ | B | C | C ⁻ | D | E |
|----------------------------|-------------------------|----------------------|-----------------------|------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 目標を大きく上回った (達成率 140%以上) | 目標を上回った (達成率 120%以上) | 目標通り (達成率 100%以上) | 概ね目標通り (達成率 90%以上) | 目標を下回った (達成率 70%以上) | 目標を大きく下回った (達成率 50%以上) | 目標を著しく下回った (達成率 50%未満) |

2 点検・評価シート（点検・評価委員が作成）

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援
戦略1 健やかな体の育成

| 【点検・評価委員による評価】 | |
|----------------|----------|
| 全体評価 | 今後の期待・要望 |

■全体評価

点検・評価委員は、所管の作成した評価シートと質問シートやヒアリングを通じて得られた情報に基づき、観点1から4までの4つの観点から施策・事業全体に係る意見や提言を記載(昨年度の点検・評価では、本年度評価対象の施策3を対象としていないため、観点1の評価はなし)。

■今後の期待・要望

点検・評価委員は、全体評価を踏まえて、各自の専門領域の立場から、今後の施策・事業への期待や要望、専門的提言を記載

■全体評価レーダーチャート

戦略の強みや弱み分かるよう、外部評価をレーダーチャートで表記

全体評価レーダーチャート

| 【観点1】 助言・今後の期待への反映率 | 【観点2】 目標・成果の達成状況 | 【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか | 【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か |
|------------------------|---------------------|------------------------------|--------------------------|
| 5 | 3 | 5 | 5 |

■全体評価(7段階)

観点別点数の合計点を算出し、P12の表2を基準としてA、B⁺、B、C、C⁻、D、Eまでの7段階で全体評価を実施。

全体評価

C

■観点別評価

観点1 助言・今後の期待への反映率(前年度評価を受けての反映状況)
 観点2 目標・成果の達成状況
 観点3 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか
 観点4 児童・生徒にとって真に効果的か

の4つの観点について、P12の「基準表1 観点別評価基準表」を基準に1から7までの7段階評価を実施。

施策 3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実

| | | |
|------|-------------------------------|----|
| 戦略 1 | 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談 | 21 |
| 戦略 2 | 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援・・・ | 29 |
| 戦略 3 | 切れ目のない特別支援教育の推進・・・・・・・・・・ | 41 |
| 戦略 4 | いじめの早期発見・早期対応・・・・・・・・・・ | 53 |

第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談

| | | | |
|-----|-------------------------------|------|-------|
| 施策3 | 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実 | 記入所属 | 教育相談課 |
| 戦略1 | 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談 | | |

戦略の達成度を測る成果指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|-----|-------|--|----|-----|-----|------|------|------|------|------|
| 成果1 | 教育相談課 | 個別のカウンセリングや心理・知能検査等を行う教育相談により、不登校等が解決または改善した割合 | % | 実績値 | 82 | 84 | 87 | 81.1 | 87.1 | 85.7 |
| | | | | 目標値 | - | 82.5 | 84 | 84.5 | 84.5 | 85 |
| | | | | 達成率 | - | 102% | 104% | 96% | 103% | 101% |
| 成果2 | 教育相談課 | 学校内で支援を行うSCにより、不登校児童・生徒が解決または改善へとつながった割合 | % | 実績値 | 72 | 80.1 | 77 | 79.3 | 82.2 | 82.2 |
| | | | | 目標値 | - | 72.8 | 74 | 75 | 76 | 77 |
| | | | | 達成率 | - | 110% | 104% | 106% | 108% | 107% |
| 成果3 | 教育相談課 | 家庭や生活環境も踏まえた支援を行うSSWにより、不登校等が解決または改善した割合 | % | 実績値 | 34 | 32.7 | 38.7 | 36.2 | 33.7 | 34.9 |
| | | | | 目標値 | - | 29 | 32 | 35 | 38 | 40 |
| | | | | 達成率 | - | 113% | 121% | 103% | 89% | 87% |
| 成果4 | 教育相談課 | 校内委員会での協議に基づく指導により、不登校の状況が改善した児童・生徒の割合 | % | 実績値 | 37 | 32 | 40 | 41 | 50 | 42 |
| | | | | 目標値 | - | 38.3 | 40 | 45 | 45 | 45 |
| | | | | 達成率 | - | 83% | 100% | 91% | 111% | 93% |

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談

| | |
|--------|---|
| めざす方向性 | 児童・生徒が抱える様々な悩みや課題の解決・改善を図ることができるよう、①教職員の専門的な知識・技術の習得、②各校における相談・支援体制の整備、③専門家や関係機関との連携協力に取り組み、一人ひとりに寄り添った支援を推進していきます。 |
|--------|---|

所管による自己評価

| ■ 指標分析(達成状況・原因・その他実績等) | ■ 課題と今後の予定、方向性 |
|--|---|
| ・目標値は概ね達成 ・不登校の相談が50%以上であり、終結までに年度を超えて相談が続くことが多い。 ・ハード面の問題もあり、本来必要な頻度での相談を行うことが難しい。 ・主訴解消した割合が85.7%。解消していないが、他機関紹介・医療機関に繋ぐ等により改善したケースを含めた割合は90.7%である。 | 【課題】 複合的な背景要因がある等、解決までに時間がかかるケースが増加している。 【今後の予定・方向性】 不登校等の背景要因をとらえ、必要に応じて関係機関と連携しながら、主訴の解消・改善に向け対応していく。 |
| 都区双方のSCが受ける相談のうち、不登校に関するものは小学校で約25%、中学校で約50%を占める。相談の結果、その後の欠席日数が減る、少しずつ学校に通えるようになるなどの改善が見られた割合は80%を超えており、目標を達成した。 | 【課題】 多くの不登校の児童・生徒が抱える「不安」に向き合うSCの役割は大きい。より多くの相談を受けられるよう、区SCの欠員状態を解消していく必要がある。 【今後の予定・方向性】 区SCの人材確保とともに、エンゲージメント(組織への愛着や貢献意欲)を高めるため、統括SCによる相談、フォロー体制の強化等環境整備を進める。 |
| SSWが受ける相談の主訴の50%以上が不登校となっている。不登校の背景にある家庭環境の課題解決にも取り組んでおり、34.9%が解決または改善しているが、目標値には届かなかった。特に不登校が長期化している児童・生徒について、改善に時間を要している。 | 【課題】 不登校児童・生徒数は増加傾向が続いており、家庭環境に働きかけるSSWの役割の重要性も増している。 【今後の予定・方向性】 経験年数に応じた研修や統括SSWによる巡回指導により、SSWのスキルアップに取り組んだうえで、増員による体制強化も図っていく。 |
| ・校内委員会で協議に基づく指導により、不登校の状況が改善した児童・生徒が一定数出てきている一方で、現状維持またはコンタクトが取れないなどの状況が悪化した児童・生徒も一定数見られた。 ・不登校児童・生徒数が高位で推移しているため、一人一人のニーズにそった手厚い支援が届かず、改善がなされなかったと思われる。 | 【課題】 今後も継続して、不登校児童生徒のニーズを把握し、適切な支援をする必要がある。 【今後の予定・方向性】 状況を把握できるよう、保護者に連絡を取れる関係を築くことやアセスメントや分析結果を学校に報告することなど、関係機関と連携する。 |

第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | | | | | | |
|-----|-------|--------------------------------------|------|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------|------|------|-----|------|-----|
| 活動1 | 教育相談課 | 教育相談の人数(実数) | 人 | 実績値 | 1,468 | 1,478 | 1,555 | 1,616 | 1,725 | 1,711 | | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | 1,473 | 1,500 | 1,500 | 1,500 | 1,500 | | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | 100% | 104% | 108% | 115% | 114% | | | | | | |
| 活動2 | 教育相談課 | SCの相談延べ回数(区SC・都SC合計数) | 回 | 実績値 | 74,517 | 66,126 | 66,387 | 71,143 | 71,808 | 69,553 | | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | 62,165 | 75,000 | 75,000 | 75,000 | 75,000 | | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | 106% | 89% | 95% | 96% | 93% | | | | | | |
| 活動3 | 教育相談課 | SSWによる相談人数(実数) | 人 | 実績値 | 363 | 444 | 473 | 439 | 513 | 605 | | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | 369 | 400 | 400 | 400 | 400 | | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | 120% | 118% | 110% | 128% | 151% | | | | | | |
| 活動4 | 教育相談課 | SSWが関係機関と連携した回数 | 回 | 実績値 | 304 | 492 | 460 | 371 | 376 | 418 | | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | 320 | 340 | 360 | 380 | 400 | | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | 154% | 135% | 103% | 99% | 105% | | | | | | |
| 活動5 | 教育相談課 | 校内委員会にSSWが参加している割合 (令和3年度目標値変更指標) | % | | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | | |
| | | | | 実績値 | 29 | 77 | 39.1 | 97.1 | 53.6 | 100 | 58.8 | 100 | 68.7 | 100 | 86.6 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | - | 35 | 80.8 | 40 | 100 | 50 | 100 | 80 | 100 | 100 | 100 |
| 達成率 | - | - | 112% | 120% | 134% | 100% | 118% | 100% | 86% | 100% | 87% | 100% | | | | |

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談

所管による自己評価

| ■指標分析(達成状況・原因・その他実績等) | ■課題と今後の予定、方向性 | 自己評価 | |
|--|--|------|----|
| <p>・目標値を上回る相談に対応をしている。 ・新規の相談件数は725件(R5年度:827件)であった。 ・不登校の相談が毎年1番多い(R6年度:913件)。 ・1度相談を終結した人も繰り返し申し込んでくることが多い。</p> | <p>【課題】 相談件数が多く、受理面接までの日数や相談の来室間隔・頻度が空く傾向があり、個の状況に合わせた相談の実施が困難となっている。</p> <p>【今後の予定・方向性】 R7年度は相談員の増員、相談担当地域の変更を行った。これにより、受付から受理面接までの待機日数等の解消に繋がったかどうかを検証する必要がある。</p> | 1 | B+ |
| <p>都区双方のSCが受けた相談延べ件数は毎年、70,000回前後で推移している。SCの人数や体制に大きな変化がなかったことから相談件数はほぼ横這いとなっており、目標値には届かなかった。</p> | <p>【課題】 今後は不登校児童・生徒数の増加、SSR(スモール・ステップ・ルーム)の拡大等により相談件数の増加が見込まれるが、相談を受ける区SCの欠員状態が続いている。</p> <p>【今後の予定・方向性】 区SCの人材確保とともに、エンゲージメント(組織への愛着や貢献意欲)を高めるための環境整備を進める。</p> | 2 | C |
| <p>令和6年度、SSWは前年度比で2人増となった。一人あたりの担当校数が減ったことにより、学校からの相談を受け入れやすくなった結果、相談人数が増加し、目標を上回った。</p> | <p>【課題】 今後も相談件数は増加が見込まれ、相談内容も不登校だけではなく様々な相談を受け付けることから、SSW一人ひとりのスキルアップが不可欠である。</p> <p>【今後の予定・方向性】 経験年数に応じた研修や統括SSWによる巡回指導により、SSWのスキルアップに取り組むなど、体制強化を図っていく。</p> | 3 | A |
| <p>増員により、SSW全体の活動時間が増えたことから、関係機関と連携する機会も増え、目標を達成した。</p> | <p>【課題】 SSWと連携する関係機関は年々増えているが、学校に近い地域の機関や団体(民生・児童委員等)との連携強化が課題である。</p> <p>【今後の予定・方向性】 SSWのスキルアップ及び更なる増員を図ることで、地域の機関や団体との連携強化に取り組んでいく。</p> | 4 | B |
| <p>増員により、SSW全体の活動時間が増えたことから、今まで参加できなかった小学校の校内委員会にも参加できるようになってきた。その結果、昨年度よりも割合が約18ポイント増加したが、目標値達成には至らなかった。</p> | <p>【課題】 少数だが、校内委員会が開催されないため、参加できない小学校がまだある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 計画的な増員により小学校への訪問の機会を増やすとともに、校内委員会が開催されていないすべての小学校に対して開催を促していく。</p> | 5 | C |

第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|---------|-------|--|----|-----|-----|-----|------|------|-----|------|
| 活動 6 | 教育相談課 | 教育相談に係る研修会の教員受講者数 (令和3年度目標値変更指標) | 人 | 実績値 | 150 | 0 | 158 | 137 | 145 | 151 |
| | | | | 目標値 | - | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 |
| | | | | 達成率 | - | 0% | 105% | 91% | 97% | 101% |
| 活動 7 | 教育相談課 | 教育相談研修の受講教員が、各学校において、研修内容を活用した割合(令和2年度よりアンケート実施予定) | % | 実績値 | - | 0 | 64 | 94 | 99 | 97 |
| | | | | 目標値 | - | - | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | 64% | 94% | 99% | 97% |
| 活動 8 | 教育相談課 | 学校支援員の派遣により支援した学級数【学校支援員の数】 (令和3年度目標値変更指標) | 学級 | 実績値 | 20 | 24 | 33 | 36 | 33 | 38 |
| | | | | 目標値 | - | 25 | 30 | 35 | 43 | 50 |
| | | | | 達成率 | - | 96% | 110% | 103% | 77% | 76% |
| | | | 人 | 実績値 | 6 | 7 | 7 | 9 | 9 | 9 |
| | | | | 目標値 | - | 8 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| | | | | 達成率 | - | 88% | 70% | 90% | 90% | 90% |

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談

所管による自己評価

| ■指標分析(達成状況・原因・その他実績等) | ■課題と今後の予定、方向性 | 自己評価 | |
|--|---|------|----|
| <ul style="list-style-type: none"> ・R6年度は、教育相談ABコースともに定員20人を超える申し込みがあった(7人超過)。 ・Aコース受講者が翌年度にBコースを受けることが多い。 ・リピーターの受講者も複数名いる | <p>【課題】 研修内容(バリエーション)を学校現場で活かせるものにブラッシュアップし続けていく必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 研修受講者の受講報告書及びアンケートでいただいた意見等を反映し、研修計画、運営をしていく。</p> | 6 | B |
| <ul style="list-style-type: none"> ・受講者の肯定的回答率が高位のまま、推移している。 ・コーディネーター研修で、専門的な知識を伝えることができた。 | <p>【課題】 引き続き、若手を含む、教育相談コーディネーターの育成に取り組む必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 教育相談コーディネーター研修の内容を校内でも共有させ、コーディネーターの育成を図るとともに、学校への区の施策等の周知につなげる。</p> | 7 | B+ |
| <ul style="list-style-type: none"> ・R6年度の支援申請数は50件であり、その50件に対し教育相談員等による行動観察を行い、支援員派遣またはその他の適切な支援について学校に結果報告している。そのうち学校支援員の派遣数は38件だった。 ・小学校:30件 ・中学校:8件 ・派遣なし:12件 ・小学校からの派遣要請が多い。 ・基本的に2クール(6ヵ月)派遣している。 | <p>【課題】 ・派遣なしの理由として、学校支援員派遣以外に適切な対応先があったケースのほか、支援員不足により派遣できなかったこともあった。特に年度後半に支援申請があった場合、支援員の枠に空きが無いため派遣できないことが多くなる。 ・複数の申請が同じ学校から出ていることがある一方で、まったく申請のない学校がある。 ・期間を限った支援では、変化がみられない場合もある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 派遣期間等について、学校のニーズと現行の事業のあり方が合致しているのかどうかを検討する。それに伴い支援員の適正人員についても検討する。</p> | 8 | C |

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談

| 【点検・評価委員による評価】 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|------------------------------|------------------------------|--------------------------|---|---|---|---|--|------------------------|---------------------|------------------------------|--------------------------|---|---|---|---|
| 全体評価 | 今後の期待・要望 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【目標・成果の達成状況】 成果指標について、成果3を除いて、達成率93%以上と高く、計画的な各取り組みの相互作用の結果が反映していると思われる。成果3については、困難な事例の多いSSWによる成果であること、かつ過去最も高い目標値に対する達成率であることは、理解すべきであろう。また人員や回数等の基礎的データを活動指標とし、その結果となる成果指標には改善率や解決率を示している建付けは施策目標として妥当と言えよう。 なお活動7のようにそもそも達成率が120%(B+)以上の評価ができない指標もあり、政策評価指標そのものの限界がある点への解釈は改善すべきである。</p> <p>【各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか】 各取り組みは、戦略の方向性に合致するものが多く、その達成を維持継続させていくことを期待されるべきものと思われる。 一方で、成果を挙げていくためには、単に人員や回数を上げていくだけではない、質的な要素の理解とあり方が大いに求められる。例えば、成果3においての結果だけを上げるのならば、成果が出るケースだけを担当し関与するほうがよいことになる。そのような意味では、本質的な成果を挙げていくためには、量的な目標だけでなく、支援の質を担保・向上させていくような戦略が付随している必要がある。換言すれば、目標値を年々上げていくのか、維持していくのかの検討は継続して求められる。</p> <p>【児童・生徒にとって真に効果的か】 各取り組みは、児童・生徒にとって効果的であるものが多く、その達成を維持継続させていくことを期待されるべきものと思われる。そして、真に効果的であるかどうかについては、上述したように量だけでなく、質をいかに担保・向上できるかが求められる。 このことについて、SCやSSWに対してはフォロー体制の強化の考えがあること、教職員研修内容に対してはアンケートを踏まえて反映させていく考えがあり、真に効果を上げるための取り組みへ移行している最中と考えられる。 一方で、活動4における各機関・団体との連携をいかにしているかが大きな課題である。短絡的な解決や改善は、結果として卒業後の生徒の生活を踏まえた効果に必ずしも結びつくものとは限らない。そのため、長期的な地域生活を踏まえた支援体制や連携体制は不可欠であり、義務教育という担当期間の成果だけを追うものとならないよう、“区民としての子ども”の概念を得た支援をしていくことは必須である。</p> | <p>全体的な成果達成は、単一での成果や活動の結果ではなく、それぞれの教育相談事業のあり方が相互に寄与した結果であることは十分に評価すべき事項と捉えられる。 近年では、教職員のウェルビーイングも求められ、働き方改革の中で、多機関と教職員が連携していく時間の確保は大変難しいものとなっていることが多い。そのような時間が取れないという結果は、本成果にも示されていると言えよう。 さらに専門職の人員確保の課題は、全国的な課題であり、同水準の職務ならば雇用条件のよい自治体での選択をすることは当然であろう。会計年度職員の限界もあり、専門性の質の担保と向上は継続的な課題である。 これら等を踏まえ、担当課にて、(担当課の持つ)現状の展望や創意工夫への検証をし、持続可能な事業運用となることを期待したい。加えて、不登校の具体的要因の理解や効果的支援の理解の情報の蓄積についても期待したい。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 全体評価レーダーチャート | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <thead> <tr> <th>【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th> <th>【観点2】 目標・成果の達成状況</th> <th>【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか</th> <th>【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> </tbody> </table> | 【観点1】 助言・今後の期待への反映率 | 【観点2】 目標・成果の達成状況 | 【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか | 【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か | 6 | 6 | 5 | 6 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th> <th>【観点2】 目標・成果の達成状況</th> <th>【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか</th> <th>【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> </tbody> </table> | 【観点1】 助言・今後の期待への反映率 | 【観点2】 目標・成果の達成状況 | 【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか | 【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か | 6 | 6 | 5 | 6 |
| 【観点1】 助言・今後の期待への反映率 | 【観点2】 目標・成果の達成状況 | 【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか | 【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 6 | 5 | 6 | | | | | | | | | | | | | | |
| 【観点1】 助言・今後の期待への反映率 | 【観点2】 目標・成果の達成状況 | 【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか | 【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 6 | 5 | 6 | | | | | | | | | | | | | | |

第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

| | | | |
|-----|------------------------|------|-------|
| 施策3 | 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実 | 記入所属 | 教育相談課 |
| 戦略2 | 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援 | | |

戦略の達成度を測る成果指標

| 成果 | No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | | R2 | | R3 | | R4 | | R5 | | R6 | | |
|-----|-----|-------|---|----|-----|-----|-----|------|------|-----|------|------|------|------|-----|-----|-----|
| | | | | | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | |
| 成果1 | 1 | 教育相談課 | 不登校児童・生徒数(年間30日以上 の欠席者) * 低減目標 | 人 | 実績値 | 239 | 697 | 312 | 665 | 318 | 678 | 371 | 791 | 572 | 960 | 564 | 978 |
| | | | | | 目標値 | - | - | 236 | 691 | 280 | 656 | 300 | 650 | 300 | 700 | 220 | 660 |
| | | | | | 達成率 | - | - | 76% | 104% | 88% | 97% | 81% | 82% | 52% | 73% | 39% | 67% |
| 成果2 | 2 | 教育相談課 | 新規の不登校児童・生徒数 * 低減目標 | 人 | 実績値 | 110 | 316 | 197 | 277 | 183 | 295 | 189 | 455 | 429 | 544 | 372 | 526 |
| | | | | | 目標値 | - | - | 107 | 303 | 100 | 280 | 170 | 280 | 130 | 260 | 90 | 240 |
| | | | | | 達成率 | - | - | 54% | 110% | 55% | 95% | 90% | 62% | 30% | 48% | 24% | 46% |
| 成果3 | 3 | 教育相談課 | 中学1年生の不登校生徒数に占める 新規不登校生徒の割合 * 低減目標 (令和4年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | - | - | - | 65 | 75 | 70 | | | |
| | | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | - | 80 | 75 | 70 | | | |
| | | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | - | 123% | 100% | 100% | | | |
| 成果4 | 4 | 教育相談課 | 校内委員会での協議に基づく指導に より、不登校の状況が改善した児童・ 生徒の割合(戦略1の再掲) | % | 実績値 | 37 | 32 | 40 | 40 | 40 | 41 | 50 | 42 | | | | |
| | | | | | 目標値 | - | 38 | 40 | 40 | 45 | 45 | 45 | | | | | |
| | | | | | 達成率 | - | 83% | 100% | 100% | 91% | 111% | 93% | | | | | |

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

| | |
|--------|---|
| めざす方向性 | 不登校の未然防止・早期対応については、魅力のある学校づくりや学校・教育委員会・関係機関等との連携により、各校における組織的対応の強化を図っていきます。 不登校児童・生徒への支援については、学校への復帰や社会的自立に向け、個の状況に応じた多様な教育機会・学習機会を確保していきます。 |
|--------|---|

所管による自己評価

| ■指標分析(達成状況・原因・その他実績等) | ■課題と今後の予定、方向性 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・R5とほぼ変わらず、横ばいである。 ・経年の変化から、高止まりではなく、増加傾向は続いているものとする。 ・保護者の不登校児童・生徒への理解が進み、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではないという考えが広まってきた。 | <p>【課題】 どこにもつながっていない児童・生徒が62人いる。</p> <p>【今後の予定・方向性】 ・どこにもつながっていない児童・生徒に対し、校内委員会で決定した支援者(例えば、担任やSSW、児相など)が家庭にアプローチするとともに、学びたいと思った時に学べる環境を整える。 ・登校サポーターの利用条件を緩和することで活用を促し、未然防止を進める。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の新規不登校児童・生徒数が急増している。 ・学校生活へのやる気がでないことや不安、抑うつ、生活リズムが整わないことの相談が多い。 | <p>【課題】 新規不登校生徒数の急増に対応するためにも重要な早期発見と初期対応をより強化する必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 ・どこにもつながっていない児童・生徒を減らす。 ・学びたいと思った時に学べる環境を提供する。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・中1での新規の不登校生徒数が急増している。 ・夏休み明けから休み続ける傾向が強い。 | <p>【課題】 従来からの傾向であるが、不安や抑うつによる相談が最も多い。</p> <p>【今後の予定・方向性】 ・どこにもつながっていない児童・生徒を減らし、専門的な指導・助言ができる環境を整える。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・校内委員会で協議をするものの、状況が改善した児童・生徒は一定数にとどまり、現状維持またはコンタクトが取れないなどの状況が悪化した児童・生徒が多かった。 ・不登校児童・生徒数が高位で推移しているため、一人一人のニーズにそった手厚い支援が届かず、改善がなされなかったと思われる。 | <p>【課題】 今後も継続して、不登校児童生徒のニーズを把握し、適切な支援をする必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 状況を把握できるよう、保護者に連絡を取れる関係を築くことやアセスメントや分析結果を学校に報告することなど、関係機関と連携する。</p> |

第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

戦略の達成度を測る成果指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|---------|-------|---|----|-----|-----|------|------|------|------|------|
| 成果 5 | 教育相談課 | 登校サポーター派遣で別室登校支援をし、状況が改善した児童・生徒の割合 | % | 実績値 | 68 | 68.1 | 66.8 | 58.5 | 45.7 | 52.1 |
| | | | | 目標値 | - | 70 | 70 | 72 | 74 | 75 |
| | | | | 達成率 | - | 97% | 95% | 81% | 62% | 70% |
| 成果 6 | 教育相談課 | チャレンジ学級で支援し、状況が改善した児童・生徒の割合 | % | 実績値 | 70 | 70.1 | 72.2 | 64.8 | 70.2 | 65.5 |
| | | | | 目標値 | - | 71 | 72 | 73 | 74 | 75 |
| | | | | 達成率 | - | 99% | 100% | 89% | 95% | 87% |
| 成果 7 | 教育相談課 | オンライン授業に定期的に参加できる等、学習活動のリズムが改善された不登校児童・生徒の割合 (令和4年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | 12.9 | 18.7 | 22.6 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 5 | 10 | 20 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 258% | 187% | 113% |

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

所管による自己評価

| ■指標分析(達成状況・原因・その他実績等) | ■課題と今後の予定、方向性 |
|---|---|
| <p>令和6年度は登校サポーターが別室で支援する児童・生徒数が大幅に増加した。改善の割合があまり伸びず、目標を下回ったが、母数が増大した影響もある。</p> | <p>【課題】 不登校の状況改善に別室の安定的な開室が大きく寄与しているが、登校サポーターがいないと別室を開室できない学校が多くある状況である。</p> <p>【今後の予定・方向性】 特に別室への派遣ができていない小中学校に登校サポーターを派遣できるよう、積極的に人材の確保を進めていく。</p> |
| <p>・正式通級生は110人(前年度104人)と前年度より6人増加 ・別室への部分登校の生徒数が15人であり、R5年度の27人から12人減少している。 ・学校復帰はR5年度は0人だったが、R6年度は5人(中3生3人を含む)が完全に学校復帰を果たしている。 ・チャレンジ学級には安定して通えるが、学校には行くことができないなど個人差が大きい。</p> | <p>【課題】 例年通り、受験を意識する中3生は学校へ部分的にでもつながる傾向があるが、中1・中2生については学校とつながることが難しいケースが多い。</p> <p>【今後の予定・方向性】 まずはチャレンジ学級へ安定して通えるように支援を続けていく。そのうえで進路を意識して、SSRや別室、放課後登校など学校と少しでもつながることができるよう働きかけていく。</p> |
| <p>オンライン授業等、ICT機器を効果的に活用して、不登校児童・生徒の学びの保障を行う学校が少しずつ増加している。</p> | <p>【課題】 一部の学校では、不登校児童・生徒の保護者から「学校がオンライン授業を行ってくれない」というご意見を賜ることがある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 不登校児童生徒のニーズに合わせ、「学びたいときに学べる環境」を整えるよう、研修で学校に周知する。</p> |

第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|---------|-------|--|----|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 活動 1 | 教育相談課 | 不登校児童・生徒に対して不登校対応マニュアルに基づき支援した割合 (令和2年度より算定) | % | 実績値 | - | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | - | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | 100% | 100% | 100% | 100% |
| 活動 2 | 教育相談課 | SCの相談延べ回数(区SC・都SC合計数) (戦略1の再掲) | 回 | 実績値 | 74,517 | 66,126 | 66,387 | 71,143 | 71,808 | 69,553 |
| | | | | 目標値 | - | 62,165 | 75,000 | 75,000 | 75,000 | 75,000 |
| | | | | 達成率 | - | 106% | 89% | 95% | 96% | 93% |
| 活動 3 | 教育相談課 | SSWによる相談人数(実数) (戦略1の再掲) | 人 | 実績値 | 363 | 444 | 473 | 439 | 513 | 605 |
| | | | | 目標値 | - | 369 | 400 | 400 | 400 | 400 |
| | | | | 達成率 | - | 120% | 118% | 110% | 128% | 151% |
| 活動 4 | 教育相談課 | 校内委員会において支援方法等を協議した延べ回数【対象児童数】【対象生徒数】 (令和3年度変更指標) | 回 | 実績値 | - | 5,287 | 5,576 | 5,580 | 5,632 | 6,450 |
| | | | | 目標値 | - | 6,000 | 6,000 | 6,000 | 6,000 | 6,000 |
| | | | | 達成率 | - | 88% | 93% | 93% | 94% | 108% |
| | | | 人 | 実績値 | - | - | - | 241 | 332 | 385 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 292 | 283 | 274 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 83% | 117% | 141% |
| | | | 人 | 実績値 | - | - | - | 552 | 760 | 904 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 625 | 606 | 587 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 88% | 125% | 154% |

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

所管による自己評価

| ■指標分析(達成状況・原因・その他実績等) | ■課題と今後の予定、方向性 | 自己評価 | |
|---|---|------|----|
| <p>各校の教育課程の補助資料として位置づけ、全校に実施するよう指示している。</p> | <p>【課題】 現状に即した対応のマニュアルを更新していくことが必要である。</p> <p>【今後の予定・方向性】 各学校が教育課程を作成するときに、区の施策を伝えるとともに、現状に即したマニュアルを作成するよう指示する。</p> | 1 | B+ |
| <p>都区双方のSCが受けた相談延べ件数は毎年、70,000回前後で推移している。SCの人数や体制に大きな変化がなかったことから相談件数はほぼ横這いとなっており、目標値には届かなかった。</p> | <p>【課題】 今後は不登校児童・生徒数の増加、SSR(スモール・ステップ・ルーム)の拡大等により相談件数の増加が見込まれるが、相談を受ける区SCの欠員状態が続いている。</p> <p>【今後の予定・方向性】 区SCの人材確保とともに、エンゲージメントを高めるための環境整備を進める。</p> | 2 | C |
| <p>令和6年度、SSWは前年度比で2人増となった。一人あたりの担当校数が減ったことにより、学校からの相談を受け入れやすくなった結果、相談人数が増加し、目標を上回った。</p> | <p>【課題】 今後も相談件数は増加が見込まれ、相談内容も不登校だけではない。様々な相談を受け付けられるような体制の構築が必要である。</p> <p>【今後の予定・方向性】 SSWのスキルアップに取り組んだうえで、増員による体制強化も図っていく。</p> | 3 | A |
| <p>・不登校児童・生徒数が高位で推移しているため、校内委員会で協議した延べの回数は増加している。 ・新規や変化のあった不登校児童・生徒の情報交換が中心になる。</p> | <p>【課題】 延べ回数が増加している一方で、支援方法等を協議しているにも関わらず、改善した児童生徒が少ない傾向にある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 ・不登校の時期(現状維持含)が休養や自分を見つめ直す等の意味をもつこともあることから、SC、SSWも校内委員会に出席し、一人ひとりの子どもの状況把握を丁寧に行っていく。 ・ICTを効果的に活用し、情報交換を効率的に行うなど、協議時間を増やす工夫を研修等で学校に伝える。</p> | 4 | B+ |

第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | | R2 | | R3 | | R4 | | R5 | | R6 | | |
|---------|-------|---|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|-----|------|-----|------|
| | | | | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | |
| 活動 5 | 教育相談課 | 校内委員会にSSWが参加している割合 (戦略1の再掲) | % | 実績値 | 29 | 77 | 39 | 97 | 54 | 100 | 59 | 100 | 69 | 100 | 87 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | - | 35.0 | 80.8 | 40 | 100 | 50 | 100 | 80 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | 112% | 120% | 134% | 100% | 118% | 100% | 86% | 100% | 87% | 100% |
| 活動 6 | 教育相談課 | 長期欠席児童・生徒状況表に情報があがった割合 (長期欠席児童・生徒状況表に情報があがった人数/区立小中学校児童・生徒数) *低減目標 【中学1年生の割合】 (令和6年度変更指標) | % | 実績値 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 6 | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 5 | | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 83% | | |
| | | | % | 実績値 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 8 | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 9 | |
| 達成率 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 113% | | | | |
| 活動 7 | 教育相談課 | 小学6年生の長期欠席児童・生徒支援シート(共通シート)を作成し、進学先の中学校へ引き継ぎ指導を行った割合 (令和2年度より算定) | % | 実績値 | - | 88 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | | | |
| | | | | 目標値 | - | - | 90 | 93 | 95 | 100 | | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | - | 111% | 108% | 105% | 100% | | | | | | |
| 活動 8 | 教育相談課 | 登校渋りや教室に入れぬ児童・生徒に対し、登校サポーターを派遣した回数 【登校サポーターの人数】 (令和3年度目標値変更指標) | 回 | 実績値 | 1,852 | 4,578 | 5,096 | 5,250 | 6,427 | 7,737 | | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | 4,500 | 4,500 | 4,500 | 4,500 | 4,500 | | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | 102% | 113% | 117% | 143% | 172% | | | | | | |
| | | | 人 | 実績値 | 51 | 74 | 104 | 99 | 104 | 140 | | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | 54 | 70 | 70 | 70 | 70 | | | | | | |
| 達成率 | - | 137% | 149% | 141% | 149% | 200% | | | | | | | | | | |

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

所管による自己評価

| ■指標分析(達成状況・原因・その他実績等) | ■課題と今後の予定、方向性 | 自己評価 | |
|--|---|------|----|
| <p>増員により、SSW全体の活動時間が増えたことから、今まで参加できなかった小学校の校内委員会にも参加できるようになってきた。その結果、昨年度よりも割合が約18ポイント増加したが、目標値達成には至らなかった。</p> | <p>【課題】 少数だが、校内委員会へ参加できていない小学校がまだある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 そもそも校内委員会が開かれない小学校があるが、計画的な増員により学校訪問の機会を増やし、夕会等の職員会議には必ず参加できるようにしていく。</p> | 5 | C |
| <p>・不登校の未然防止するための情報収集の意味も含め、欠席日数が30日未満の児童・生徒も、欠席が続いていたら報告するよう学校に指示している。 ・不登校児童・生徒数以上の数(2,373人)が情報として集まった。 ・目標値を上回っているが、その分、学校は児童・生徒の見取りができていていると考える。</p> | <p>【課題】 家庭と連絡が取れず長期欠席の事由を把握できないことがある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 関係諸機関と連携し、情報共有をするとともに、学校と家庭が連絡を取れるよう他課にも協力要請しながら支援を進める。</p> | 6 | C |
| <p>区の施策として位置づけており、全校に実施するよう指示し、年度を越えた情報共有ができている。</p> | <p>【課題】 実績値は100%となっているが、年度末の作業になるため、3月に業務が集中し、作成に時間を要する、との意見があがっている。</p> <p>【今後の予定・方向性】 長期欠席児童・生徒状況表のデータと統合し、業務軽減を図る。</p> | 7 | B+ |
| <p>登校サポーターはSNSなどでも幅広く募集をかけた結果、登録人数が大幅に増加し、それとともに派遣回数も増加し、目標を大きく上回った。</p> | <p>【課題】 令和6年度、中学校では全校、小学校でも20校以上が別室またはSSR(スモール・ステップ・ルーム)を開設し、登校サポーター派遣を希望する学校が増えているが、全校に派遣できるほどのサポーターが確保できていない。</p> <p>【今後の予定・方向性】 従来の区内大学へのチラシ配布やホームページでの募集、XやFacebookなどのSNSを使っでの募集に加え、今後は住区センター(悠々館)等へのチラシ配布や様々な媒体を使っでの募集もしていく。</p> | 8 | A |

第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|----------|-------|---|----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 活動 9 | 教育相談課 | 登校サポーターが支援した児童・生徒数【お迎え支援】 (令和4年度新規追加指標) | 人 | 実績値 | - | - | - | 52 | 56 | 55 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 20 | 20 | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 280% | 275% | |
| 活動 10 | 教育相談課 | 登校サポーターが支援した児童・生徒数【別室登校支援】 (令和4年度新規追加指標) | 人 | 実績値 | - | - | - | 277 | 341 | 477 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 180 | 180 | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 189% | 265% | |
| 活動 11 | 教育相談課 | チャレンジ学級へつなげるため、不登校児童・生徒に対し働きかけを行った回数 【正式通級となった人数】 | 回 | 実績値 | 1,362 | 1,209 | 933 | 1,718 | 1,408 | 1,132 |
| | | | | 目標値 | - | 1,435 | 1,500 | 1,500 | 1,650 | 1,800 |
| | | | | 達成率 | - | 84% | 62% | 115% | 85% | 63% |
| | | | 人 | 実績値 | 78 | 88 | 83 | 105 | 104 | 110 |
| | | | | 目標値 | - | 120 | 120 | 120 | 120 | 120 |
| | | | | 達成率 | - | 73% | 69% | 88% | 87% | 92% |
| 活動 12 | 教育相談課 | NPOと連携した学習・居場所支援の登録児童・生徒数【平成30年度 1箇所10人、令和3年度以降 4箇所70人】 (令和4年度目標値変更指標) | 人 | 実績値 | 10 | 52 | 67 | 79 | 66 | 58 |
| | | | | 目標値 | - | 50 | 60 | 60 | 70 | 70 |
| | | | | 達成率 | - | 104% | 112% | 132% | 94% | 83% |
| 活動 13 | 教育相談課 | チャレンジ学級・あすテップでオンライン授業を受講した通級生の割合 (令和4年新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | 54 | 54 | 63 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 60 | 80 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 90% | 68% | 63% |

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

所管による自己評価

| ■指標分析(達成状況・原因・その他実績等) | ■課題と今後の予定、方向性 | 自己評価 | |
|---|---|------|----|
| <p>お迎え支援は主に小学校で実施しているが、不登校の低年齢化が進む中で、登校サポーターが支援する児童数も増加し、目標を大きく上回った。</p> | <p>【課題】 お迎え支援はサポーター一人につき基本的に一人の児童・生徒の付添をするため、サポーターがさらに必要となっている。</p> <p>【今後の予定・方向性】 SNSだけでなく、チラシなどの紙媒体を区内大学のほか、住区センター(悠々館)などに配付し、積極的に人材募集を展開していく。</p> | 9 | A |
| <p>別室支援はSSRも含めて中学校を中心に実施している。令和6年度、全中学校で別室(一部SSRを含む)が開設され、サポーターの別室への派遣回数が増加し、目標を大きく上回った。</p> | <p>【課題】 令和6年度は登校サポーターの別室へ派遣できる時間数を学校あたり最大週9時間から12時間に拡大したが、それに対応するサポーターの人数確保ができていない。</p> <p>【今後の予定・方向性】 SNSなどでも呼びかけ、さらなる人材確保に努める。</p> | 10 | A |
| <p>・チャレンジ学級の正式通級となるまでの教育相談回数、付き添い体験・一人体験回数を計上している。短期間で正式通級となる児童・生徒と時間のかかる児童・生徒がおり、その年度の児童・生徒一人ひとりの状態によって働きかけ回数(実績値)の増減も変動する。 ・教育相談ケースの増加により、相談員1人あたりの担当ケース数が増加し、個の状況に合わせた面接の実施が困難となっていることも働きかけ回数が減少した一因と考える。</p> | <p>【課題】 チャレンジ学級の見学・体験通級を経た後、正式通級となる児童・生徒数に教室間の差が生じている。</p> <p>【今後の予定・方向性】 ・教室規模のほかにも正式通級となる判断基準など、教室間に差が生じている可能性があるため、状況の把握を行う。 ・児童・生徒の状態を確認しながら、チャレンジ学級へつながるよう指導員と状況共有を行いながら支援を行う。</p> | 11 | C- |
| <p>令和6年度の居場所を利用した児童・生徒数は前年度を下回り、目標値には至らなかった。不登校児童・生徒が利用する居場所については選択肢が増えていることも要因としてある。</p> | <p>【課題】 居場所は区内4か所のみと偏在していることから、通いづらい児童・生徒がおり、エリア的に課題がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 偏在している居場所の整理または増設等を検討していく。</p> | 12 | C |
| <p>・配信授業は、時間割に組み入れ、週4時間実施(国語、理科、ICT、英語、社会) ・配信授業を受けるか、自習をするかは生徒が選択することができる。</p> | <p>【課題】それぞれの生徒の理解を確認しながら双方向で授業を進めることが難しい。また、授業を行う指導員も機材操作などICTを使い授業を行うことへの難しさがある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 配信授業は令和6年度末をもって終了し、今後は教室ごとに児童・生徒に寄り添った対面授業のみ行う。通級に踏み出せない児童・生徒への支援策として、「東京都バーチャル・ラーニング・プラットフォーム」や「家庭学習支援事業」などを案内していく。</p> | 13 | C- |

| 【点検・評価委員による評価】 | | | | | | | | | |
|--|---|-----------------------------|--------------------------|-----------------------------|--------------------------|--|---|---|---|
| 全体評価 | 今後の期待・要望 | | | | | | | | |
| <p>【目標・成果の達成状況】 本年度の不登校児童・生徒数においては前年に続き多い実績値であった。本成果の難しいのは、成果2にあるような新規の不登校児童・生徒数における低減は、必ずしも教育相談課側単体での取組で成し得ない間接的な作用によることが多い点である。換言すれば、教育相談課側は、そもそも児童・生徒全体を支援しているわけではないことから、新規で増える不登校児童・生徒等を予測していくことに限界があるのである。</p> <p>一方で、成果5においては、本来、学校側での学習保障等をいかにしていくかの課題であるように思えるが、学習への補助をする登校サポーターによる成果と結びついていた。結果として教育相談課側単体の限界がありながら、不登校支援に取り組もうとしているように見える点は区としての課題であるようにも推察される。</p> <p>【各取組みが戦略の方向性に沿ったものか】 各取組みは、戦略の方向性に概ね合致する事項であると思われる。これには、不登校児童・生徒だけでなく、その傾向がある児童・生徒まで対象とする取組み(活動6)が含まれているからである。上述した内容にも関わらず、本来は担当課の事業だけでは難しい不登校の増加に対して、オンライン教材やVLPなど、可能な限りの様々なサービスを活用した支援展開を行っているように見える。</p> <p>一方で、そのような個別的な支援へ至るまでの人材の確保の課題がある。現状では、登校サポーターの対応件数の著しい達成率の高さより、担当課が不登校児童・生徒の学習保障を大きく担っているように見える。しかし、その目標値と実際のずれ、並びに教育活動やその保障において、それが本来のあり方であるべきなのか、学校を含めた区の方針として検討すべきであるようにも思える。ここには、適切な予算と人員の投入とはどうあるべきか、そもそも学習支援者は登校サポーターでよいのか疑問な点もある。</p> <p>例えば、補助者というよりは、適応指導教室のように学習保障ができる者でなくてよいのだろうかという点である。なお予算については、居場所支援(活動12)をする場所の数も関わる。</p> <p>【児童・生徒にとって真に効果的か】 上述までの内容に関わらず、不登校の児童・生徒への支援という意味では大いに意味のある戦略と思われるが、“不登校の未然防止・早期対応”という意味では、疑問な点がある。なぜならほとんどの活動が不登校という状態になってからの支援展開であり、本体となる子ども達のウェルビーイングを高める学校というプラットフォームづくりに事後的に参加しているからである。</p> <p>例えば、不登校の要因が“やる気がでないことや不安、抑うつ、生活リズム”とのことであるが、そもそもそのような状態になる前の対応ができていない戦略になっているとは言えないのではないだろうか。ここには、そのような状態になるプロセスの理解がまだできていない点も関わる。結果としての受け皿である現状の戦略では、予防的・開発的な意味合いは持ちにくいのではないだろうか。</p> | <p>年度毎に変わり得る子どもたちの状況を予測する本戦略の“成果の予測”は困難であり、単純にその達成の有無だけを評価することに意味はないように思える。日々のそれぞれの活動を丁寧に試みるだけでも大いに価値や意義があると思われるからである。</p> <p>上記を踏まえた上で、今後、適正な学習保障とはどうあるべきか、担当課だけではなく、学校運営を踏まえた展開に期待したい。加えて、全校児童・生徒に対する調査等においては、不登校の要因だけでなく、ウェルビーイングを高める学校運営(学校生活)とは何かを明らかにすることによって本戦略の達成へ向けていく可能性が大いにあると思われる。つまり、学校復帰等の事後的な対応だけではなく予防的な対応へのさらなる着目を期待したい。</p> | | | | | | | | |
| 全体評価レーダーチャート | | | | | | | | | |
| <p>The radar chart displays scores for four perspectives: 観点1 (5), 観点2 (4), 観点3 (4), and 観点4 (4). The overall evaluation is C.</p> | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th> <th style="width: 25%;">【観点2】 目標・成果の達成状況</th> <th style="width: 25%;">【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか</th> <th style="width: 25%;">【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> | | 【観点1】 助言・今後の期待への反映率 | 【観点2】 目標・成果の達成状況 | 【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか | 【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か | | 5 | 4 | 4 |
| 【観点1】 助言・今後の期待への反映率 | 【観点2】 目標・成果の達成状況 | 【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか | 【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か | | | | | | |
| | 5 | 4 | 4 | | | | | | |

第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

| | | | |
|-----|-----------------------|------|-------|
| 施策3 | 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実 | 記入所属 | 支援管理課 |
| 戦略3 | 切れ目のない特別支援教育の推進 | | |

戦略の達成度を測る成果指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | |
|-----|-------|---|----|-----|-----|------|------|------|------|------|
| 成果1 | 支援管理課 | 就学相談が完結した割合<小学校入学、小・中学校> | % | 実績値 | 99 | 99 | 99 | 99 | 99 | 99 |
| | | | | 目標値 | - | 99.2 | 99 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 100% | 100% | 99% | 99% | 99% |
| 成果2 | 支援管理課 | こども支援センターげんきで発達相談を受けた児童のうち、関係機関と連携できた割合【(受理人数-連絡が取れない人数)/受理人数】<就学前> (令和4年度目標値変更指標) | % | 実績値 | 90 | 97 | 98 | 98 | 98 | 97 |
| | | | | 目標値 | - | 91.3 | 98 | 98 | 98 | 99 |
| | | | | 達成率 | - | 106% | 100% | 100% | 100% | 98% |
| 成果3 | 支援管理課 | 発達支援児の行動上の課題が軽減又は現状維持したと判定された児童の割合【支援軽減・維持人数/継続支援児数】<就学前> (令和4年度目標値変更指標) | % | 実績値 | 89 | 95 | 96 | 97 | 91 | 98 |
| | | | | 目標値 | - | 90 | 95 | 96 | 97 | 97 |
| | | | | 達成率 | - | 106% | 101% | 101% | 94% | 101% |
| 成果4 | 支援管理課 | 特別支援教室での指導により困り感が改善(退室)した児童・生徒の割合 | % | 実績値 | 5.8 | 7.1 | 9.1 | 12.9 | 18.8 | 16.2 |
| | | | | 目標値 | - | 6.5 | 7.5 | 9.5 | 13 | 10 |
| | | | | 達成率 | - | 109% | 121% | 136% | 145% | 162% |
| 成果5 | 支援管理課 | ペアレント・メンター(発達障がい特性のある子の育児経験がある保護者)による相談件数のうち、2回以上相談にかかっているリピーターの割合 | % | 実績値 | 68 | 59 | 85 | 75.9 | 78.9 | 33 |
| | | | | 目標値 | - | 69.2 | 72 | 85 | 75 | 75 |
| | | | | 達成率 | - | 85% | 118% | 89% | 105% | 44% |
| 成果6 | 支援管理課 | ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導を実践している教員の割合 | % | 実績値 | - | 0 | 70 | 80 | 90 | 97 |
| | | | | 目標値 | - | - | 70 | 80 | 90 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | 100% | 100% | 100% | 97% |

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

| | |
|--------|--|
| めざす方向性 | 心身の発達に支援を必要とする子どもたちに、早い時期から発達段階に応じた支援を行うため、「気づく」「つなぐ」「支える」の3つの視点から、関係機関同士の連携を図り、一人ひとりの成長や生活環境に応じた切れ目のない相談・支援を強化していきます。 |
|--------|--|

所管による自己評価

| ■指標分析(達成状況・原因・その他実績等) | ■課題と今後の予定、方向性 |
|---|--|
| 就学相談の申込み件数は1,290件で、特別支援の利用を悩んでいる保護者と連絡がつかないなどにより継続相談となったものを除き、1,281件の相談が完結した。 | <p>【課題】 就学相談の申込期限直前の申し込みや、保護者と連絡がつかないため、面談が年度末になるケースがあり、完結とならない。</p> <p>【今後の予定・方向性】 就学相談が迅速に終結するよう、申込期限の前倒しや、保護者との連絡手段に電子申請を取り入れる。</p> |
| 発達相談を受理した人数:1,065人、連絡が取れなくなり関係機関と連携をとれなかった人数:29人 必要に応じて関係機関(療育機関を含む)との連携を実施できている。 | <p>【課題】 相談件数が年々増加する中、相談受理後もフォロー電話・面接をする必要性も高まっている。</p> <p>【今後の予定・方向性】 新規相談を受けるフォロー電話・面接する時間を確保する方法について、令和8年度に向けて検討していく。</p> |
| 保育者と専門職(心理士・作業療法士)と連携し児童の発達特性に応じた対応を行ってきたため、問題行動の軽減につながった。 | <p>【課題】 専門職派遣の回数には限りがある。児童への支援手段・統一性のある支援方法を構築していく必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 個別支援計画(園生活支援シート)の作成の定着及び、活用の支援を専門職を通して行っていく。</p> |
| 継続検討の書式を改定したことで、課題が明確になったため、退室にならなかった。 | <p>【課題】 児童・生徒の課題は明確になったが、退室の明確な基準を各校で決めているため、統一された目安を提示する必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 年度末までに様式をさらに見直し、児童・生徒の成長をとらえやすくし、退室の目安を示していく。</p> |
| 障がい特性のある子を育てた保護者からのアドバイスを受けることで、身近で具体的な内容の相談ができると共に、相談者の気持ちに寄り添える点がピーターにつながった。 そのうえで、同じ人ばかり利用しているという意見があり、今年度は新規利用者率が上がるよう取り組んだ結果、リピーター率が下がっている。 | <p>【課題】 相談者は児童の成長と共に悩みも変化していくことが予想される。引き続き悩みに合わせたメンターの配置をしていく。</p> <p>【今後の予定・方向性】 新規利用者の増加と共に、リピーター率も上昇するようペアレント・メンター事業の周知及び関連機関との連携をしていく。</p> |
| ユニバーサルデザイン教育の推進に関する区主催の教員研修会を通して、その後、各小中学校で還元研修を実施している。 区内全小中学校が還元研修を通して、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ実践している。年々、指導の実践ができる教員の割合は増えているが、全教員までには至らない。 | <p>【課題】 全教員によるユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導の実践には至れていない。</p> <p>【今後の予定・方向性】 令和7年度も校内還元研修は実施する。その際、全教職員が意識して取り組めるよう、教員研修会で更なる周知徹底を図れるよう、ユニバーサルデザインのメリットを伝えていく。</p> |

第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

戦略の達成度を測る成果指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|---------|-------|--|----|-----|-----|----|----|------|------|------|
| 成果 7 | 支援管理課 | 特別支援教室利用の児童・生徒のうち、教室環境の改善を図ることで、困難さが軽減されたと感じた児童・生徒の割合 (令和4年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | 29.5 | 32.2 | 40.9 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 80 | 80 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 37% | 40% | 41% |
| 成果 8 | 支援管理課 | 個別学習において、学力に応じたICTの学習支援を受け、主体的に学習に取り組めたと感じた児童・生徒の割合 (令和4年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | 24.9 | 25.6 | 32 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 30 | 35 | 50 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 83% | 73% | 64% |
| 成果 9 | 支援管理課 | ICTを活用し、読み・書きの困難さに応じた学習支援を受け、主体的に授業に参加できたと感じた児童・生徒の割合 (令和4年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | 44.2 | 41.1 | 42.2 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 25 | 50 | 65 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 177% | 82% | 65% |

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

所管による自己評価

| ■指標分析(達成状況・原因・その他実績等) | ■課題と今後の予定、方向性 |
|--|--|
| <p>教室環境の改善により効果を得られた児童・生徒は約4割となり、環境整備が困難さの軽減につながっている。教室環境を意識できる教員は増えているが、児童・生徒の困り感も様々であり、一人ひとりに即した環境整備をより意識していく必要がある。</p> | <p>【課題】 発達障がいの子も、そうでない子も、誰もが困り感をもたずに過ごせる教室環境の仕組みを構築できるよう、今以上に、教員達の理解啓発を促していく必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 教員研修会において、具体的な環境整備を写真で示したり、より良い環境づくりをしている学校の事例を横展開していく。</p> |
| <p>ICTの活用により、視覚優位の学習形態となり、意欲をもって学習に取り組める児童・生徒が増えている。その一方で、必ずしもICTの学習に主体的に取り組めるところまで行きつかない児童・生徒も一定数存在している。目的無く、ただICT機器を使用するのではなく、ICTを活用する場面を精選し、メリハリをつけた活用方法を検討するなど、指導者による事前の綿密な計画が大切になる。</p> | <p>【課題】 今以上に、指導者が効果的なICT機器の活用方法を意識して学習支援を行う必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 引き続き、教員研修会でICT活用の具体的な実践例を示したり、良い取組を実践している学校の事例を横展開し、区内で広めていく。</p> |
| <p>実績値は横ばいであるが、読み書きの困難さを抱えている児童・生徒にとって、ICTを活用して取り組むことは効果があるので、今後も継続して活用できるようにしていく。</p> | <p>【課題】 ICT活用では積極的に授業に参加できない児童・生徒に対する支援方法を検討する必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 ICT活用により、児童・生徒が意欲的に学習に取り組める事案を研修会等で横展開するだけでなく、ICTを活用することが、困り感の改善に効果的であると児童・生徒に気づかせていける支援方法を検討していく。</p> |

第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|-----|-------|---|----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 活動1 | 支援管理課 | 「心理相談」「発達相談」「出張相談」の件数【「巡回・専門職派遣」「発達相談・ランチ相談」】 | 件 | 実績値 | 2,226 | 2,236 | 2,346 | 2,399 | 2,417 | 2,689 |
| | | | | 目標値 | - | 2,272 | 2,250 | 2,420 | 2,400 | 2,500 |
| | | | | 達成率 | - | 98% | 104% | 99% | 101% | 108% |
| 活動2 | 支援管理課 | 子育てサロンへのお出張講座の開催【参加者(組)】(令和元年度新規事業) | 回 | 実績値 | - | 0 | 0 | 10 | 9 | 9 |
| | | | | 目標値 | - | - | 10 | 10 | 10 | 24 |
| | | | | 達成率 | - | - | 0% | 100% | 90% | 38% |
| | | | 組 | 実績値 | - | 0 | 0 | 95 | 75 | 95 |
| | | | | 目標値 | - | - | 70 | 70 | 100 | 140 |
| | | | | 達成率 | - | - | 0% | 136% | 75% | 68% |
| 活動3 | 支援管理課 | 「4歳の気づきのしくみ」の実施園の割合(対象園:認可保育所・区立認定こども園) | % | 実績値 | 70 | 65.4 | 70.7 | 73.1 | 75.1 | 80.1 |
| | | | | 目標値 | - | 73.3 | 67 | 75 | 77 | 90 |
| | | | | 達成率 | - | 89% | 106% | 97% | 98% | 89% |
| 活動4 | 支援管理課 | 発達支援委員会で特別支援を要すると判定された3~5歳児のうち、「園生活支援シート(個別支援計画)」を作成した割合(令和2年度より算定) | % | 実績値 | - | 46 | 47 | 78 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | - | 49 | 75 | 80 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | 96% | 104% | 125% | 100% |
| 活動5 | 支援管理課 | 就学移行支援プログラム実施保育所数(令和6年度変更指標) | 園 | 実績値 | - | - | - | - | - | 4 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | 4 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | 100% |
| 活動6 | 支援管理課 | 就学支援委員会の実施回数 | 回 | 実績値 | 30 | 22 | 20 | 27 | 25 | 32 |
| | | | | 目標値 | - | 30 | 20 | 24 | 27 | 30 |
| | | | | 達成率 | - | 73% | 100% | 113% | 93% | 107% |

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

所管による自己評価

| ■指標分析(達成状況・原因・その他実績等) | ■課題と今後の予定、方向性 | 自己評価 | |
|---|---|------|----|
| <p>児童数は減少傾向にあるが、発達に関する相談件数は増加傾向にある。迅速な相談対応を実施できるよう引き続き体制を充実させていく。</p> | <p>【課題】 増加傾向にある相談に対応するため、相談対応する人員や相談室を増やす必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 保健センターに加え、げんき内の応接用の部屋を相談室として確保することで迅速な相談対応を実施する。</p> | 1 | B |
| <p>3か所のサロン(関原、おおやた、千住大橋)に各3回ずつ実施。サロンへの来所児童の低年齢化に伴い、げんきでの発達相談につながる保護者も年間を通してほとんどなく、形骸化している。</p> | <p>【課題】 サロンの来所児童の低年齢化に伴い、げんきでの発達相談につながる保護者も年間を通してほとんどない。</p> <p>【今後の予定・方向性】 令和7年度からは講座は行わず、サロンへのリーフレット配布や保護者と信頼関係のあるサロンスタッフに発達支援系の取り組みについての周知活動を行う。</p> | 2 | D |
| <p>区立保育園・こども園:30園全園、私立保育園(公設民営含む):126園中95園実施(希望制)。</p> | <p>【課題】 実施園の割合を年々増加させることはできたが、現在の人員では現況以上の拡充は困難である。</p> <p>【今後の予定・方向性】 国が目標としている「令和10年度までに全国の自治体での5歳児健診の実施」に合わせて、所管課と情報共有の上で、拡充方法等について検討していく。</p> | 3 | C- |
| <p>園生活支援シート(個別支援計画)の内容の記入の仕方について、十分な理解がなされていないため、実際の保育に生かされていない。</p> | <p>【課題】 保育士の園生活支援シートに対する理解を深めてもらい、実際の保育に生かす必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 保育士に向けた研修を実施する。また、作成したシートを提出してもらい、児童に適した計画であるか、事前(巡回前)に内容を確認していく。</p> | 4 | A |
| <p>区立保育園モデル4園(中央本町、第三上沼田、梅田、千住あずま)にて84名に対し実施。プログラム中に心理士が行動観察及び保育者への助言を行い、保育者に通常保育の中で特別支援の視点を入れた保育を取り組んでもらうことができた。</p> | <p>【課題】 接続期カリキュラムとの精査が必要である。対象児数が限られており、人的な負担が大きい。</p> <p>【今後の予定・方向性】 同年代に実施している動画プログラム(4プログラム視聴案内の通知文をチュールリップシート配付時に同封している)の連続視聴及びアンケートの回答がサイトの中でスムーズに行えるようなサイト作成を令和7年度の発行にあわせてすすめていく。</p> | 5 | B |
| <p>例年、定例会を18回程度開催するとともに、審議件数が多い場合や緊急で審議する必要がある場合には臨時会を開催し、適切な就学先につなぐことができた。 令和6年度 定例会18回 臨時会14回</p> | <p>【課題】 出席委員の日程調整が難しく、委員会資料の調製も負担となっている。</p> <p>【今後の予定・方向性】 令和7年度の委員会から資料のペーパーレス化、審議の簡素化を図り、負担を軽減していく。</p> | 6 | B |

第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|------|-------|---|----|-----|-----|------|------|------|------|------|
| 活動7 | 支援管理課 | 特別支援学級(固定学級)の設置校数 | 校 | 実績値 | 29 | 29 | 30 | 30 | 30 | 30 |
| | | | | 目標値 | - | 29 | 30 | 30 | 30 | 30 |
| | | | | 達成率 | - | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| 活動8 | 支援管理課 | 特別支援教室(コミュニケーションの教室)の設置校数 | 校 | 実績値 | 81 | 104 | 104 | 103 | 102 | 102 |
| | | | | 目標値 | - | 104 | 104 | 103 | 102 | 102 |
| | | | | 達成率 | - | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| 活動9 | 支援管理課 | スクールアシスタントの配置申請に基づき、スクールアシスタントを配置することができた子どもの割合(令和3年度指標名変更) | % | 実績値 | 93 | 94.6 | 97.8 | 82 | 87 | 84 |
| | | | | 目標値 | - | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 95% | 98% | 82% | 87% | 84% |
| 活動10 | 支援管理課 | ペアレント・メンターによる相談件数【利用者数】 | 件 | 実績値 | 103 | 99 | 87 | 90 | 96 | 108 |
| | | | | 目標値 | - | 106 | 108 | 90 | 100 | 120 |
| | | | | 達成率 | - | 94% | 81% | 100% | 96% | 90% |
| | | | 人 | 実績値 | 52 | 128 | 130 | 143 | 138 | 212 |
| | | | | 目標値 | - | 69 | 140 | 140 | 145 | 156 |
| | | | | 達成率 | - | 185% | 93% | 102% | 95% | 136% |
| 活動11 | 支援管理課 | 特別支援に係る研修会に参加した学校の割合(令和4年度変更指標) | % | 実績値 | - | - | - | 85 | 90 | 95 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 90 | 90 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 94% | 100% | 95% |

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

所管による自己評価

| ■指標分析(達成状況・原因・その他実績等) | ■課題と今後の予定、方向性 | 自己評価 | |
|---|---|------|----|
| 令和6年度は小学校20校、中学校10校に設置している。 | <p>【課題】 応募多数で一部の小学校で抽選となった。</p> <p>【今後の予定・方向性】 特別支援学級の需要予測を立てたうえで、新設と増学級を検討していく。</p> | 7 | B |
| 統廃合校は無かったため102校を維持している | <p>【課題】 教員配置は区全体の児童・生徒数に対応しており、今後利用児童・生徒数が減少すると各校に教員1名以上の配置ができなくなる可能性もある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 特別支援教育研修の他に、必要に応じて学校に講師を派遣し、より具体的な助言を行い支援の充実を図る。</p> | 8 | A |
| 特別な支援が必要な児童・生徒が増えているため、学校から対応に苦慮する相談が増加している。それに比例するようにスクールアシスタントの配置申請も増えている。 | <p>【課題】 配置承認児童・生徒数の急激な増加に対応しきれしていない。</p> <p>【今後の予定・方向性】 事業の見直しを行い、より児童・生徒に適した支援として検討を進めていく。</p> | 9 | C- |
| 相談件数・人数は多少増加傾向にある。発達特性のあるお子さんを育てた経験者からのアドバイスを受けられるため、身近に相談しやすい環境である。 | <p>【課題】 新規利用者・リピーターの利用率を増加させるため、関連機関及び区民の方に対して広く周知する必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 校長会やシーフォース、イベントによるチラシ配布、駅スタンドへのチラシ設置等、ペアレント・メンター事業を周知していく。</p> | 10 | B+ |
| 研修会への参加は、各校1名を想定して設定しているが、研修対象者が校内事情等により研修に参加できないこともあるため、参加率100%の達成には至らなかった。しかし、学校によっては代替者を用意し、できる限り研修参加ができるような配慮をしてくれたため、参加率は少しずつ上がっている。 | <p>【課題】 研修日に校内事情や教員の体調不調等により参加できないことがある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 年間スケジュールを調整し、教員が研修に参加しやすい時期に研修会を設定する。研修受講者が欠席した場合には、当該校に資料を送付し研修内容を共有していく。</p> | 11 | C |

第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | |
|--------------|-------|--|----|-----|----|----|----|------|-----|-----|
| 活動 1 2 | 支援管理課 | 個別学習において、学力に応じたICTの学習支援を受けた対象児童・生徒の割合 (令和4年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | 33 | 34 | 44 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 40 | 60 | 90 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 83% | 56% | 49% |
| 活動 1 3 | 支援管理課 | ICTを活用し、読み・書きの困難さに応じた学習支援を受けた対象児童・生徒の割合 (令和4年度追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | 57 | 52 | 59 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 50 | 70 | 90 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 114% | 74% | 66% |

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

所管による自己評価

| ■指標分析(達成状況・原因・その他実績等) | ■課題と今後の予定、方向性 | 自己評価 | |
|--|--|------|---|
| <p>年々、ICTによる学習支援を実践している学校は増加傾向にある。全体指導の学習時には、ICTを活用している学校が多いが、個別学習時となると実践できていない傾向が見られる。ただ、目標値には届かなかったが、ICTの学習支援を受けられている児童・生徒の割合は増えており、学校現場におけるICT活用は進んでいる。</p> | <p>【課題】 個別学習時のICT活用による学習支援を推進していく必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 教員研修を通して、個別学習時にも視覚支援や音声支援など、困り感のある児童・生徒に対してICTを活用することにメリットがあることを周知していく。</p> | 12 | D |
| <p>読み書きに困り感を抱えている児童・生徒へのICT活用については、実績値から見ると横ばいとなっている。指導者が、困り感に応じた適切な支援を考え、児童・生徒と指導方法を一緒に考える時間を設けていく必要がある。</p> | <p>【課題】 児童・生徒の読み書きに関する困り感に気づき、適切な支援を考えるなど、教員の見取りの弱さや指導方法の引き出しが少ないことが課題である。</p> <p>【今後の予定・方向性】 デジタル教科書やデジター教科書の活用など、教員が読み書きに困難さを抱える児童・生徒を支援する際の選択肢を増やせるよう、研修会で助言していく。</p> | | |

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

| 【点検・評価委員による評価】 | | | | | | | | | |
|---|--|------------------------------|--------------------------|------------------------------|--------------------------|--|---|---|---|
| 全体評価 | 今後の期待・要望 | | | | | | | | |
| <p>【目標・成果の達成状況】 成果1から成果6までは概ね目標達成しており、就学前の保育所や特別支援教室の指導等が戦略3の“めざす方向性”の通りに達成できているように思われる。成果7から成果9までにおいては達成率65%以下と上記対応以外の点での困難さが示されているように見える。つまり戦略3の“めざす方向性”における“気づく”、“つなぐ”、“支える”の内、支えることの結果がまだ出ていない状態と言えよう。 なお活動7や活動8のようにそもそも達成率が120%(B+)以上の評価ができない指標もあり、政策評価指標そのものの限界がある点への解釈は改善すべきである。</p> <p>【各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか】 上述したように特別支援教育の対象者に対する入り口部分からの特別支援教室までの流れとその支援、並びにそのような児童・生徒への教室整備への対応においては概ね目標達成しており(成果1から成果6)、戦略の方向性に沿った対応がなされていると推察される。 一方で、普通学級を含めたユニバーサルデザイン教育の推進の点、並びにICTを活用した教育の推進では、ある程度の目標を達成しているが(成果7から成果9)、継続的な課題があると考えられる。例えば、教室全体の児童生徒を対象とした環境整備が必ずしも個に配慮した視点とならないこともある。そのため、継続的な検証をもってその効果的な技能が涵養されることから、教員によっては成果達成に時間の掛かる目標と言えよう。同様のことは、ICT教育についても言及できる。 なお活動12、活動13については前年度までを踏まえた妥当な目標値の設定が求められるだろう。</p> <p>【児童・生徒にとって真に効果的か】 上述したように就学前の子ども達や特別支援教室の子ども達には効果が示されたため真に効果的である可能性が高い。しかし、それが個々の教員に至ってはまだまだ検証段階であり、真に効果的とは言えない。当然ながら、このようなプロセスはあるべき状態と言えようが区においては継続的な課題と言えよう。 さらに成果7は、ユニバーサルデザインを推進する教員側の評価であり、それを享受している児童・生徒側の評価ではない。そのため、真に効果的であるかどうかを捉えるためには、子ども達の意見を踏まえた環境整備を心掛ける必要がある。課題においても「一人ひとりの児童・生徒の困り感を的確に把握することが難しい」とあり、既にユニバーサルデザインの視点ではなく、合理的配慮の視点となっている。そうであるならば、還元研修の効果や意義を捉える点も加味する必要があるだろう。</p> | <p>これまで述べてきたように義務教育段階の子ども達だけでなく、早期の発達相談等の対応はその後の子ども達の教育のあり方を検討する上で重要である。そのため、継続した目標達成が求められる。 一方、ユニバーサルデザイン教育では、継続的な研鑽が全学校に求められるが、“全体的な基礎的環境整備となり得るユニバーサルデザイン”と“個別の配慮となり得る合理的配慮”との違いを捉えた成果に対する課題や追加の成果の設定が求められるかもしれない。 特別支援教育は、合理的配慮が一つのコンセプトになることがあるが、配慮する側、される側という“特別性”を超えるような関係性づくりや(人権的・ノーマライゼーション的)学校環境・社会環境づくりの涵養も含まれること、さらに義務教育後のつながりも含めた区民を支える視点も含まれることを願う。</p> | | | | | | | | |
| 全体評価レーダーチャート | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th> <th style="width: 25%;">【観点2】 目標・成果の達成状況</th> <th style="width: 25%;">【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか</th> <th style="width: 25%;">【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> | | 【観点1】 助言・今後の期待への反映率 | 【観点2】 目標・成果の達成状況 | 【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか | 【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か | | 5 | 5 | 4 |
| 【観点1】 助言・今後の期待への反映率 | 【観点2】 目標・成果の達成状況 | 【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか | 【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か | | | | | | |
| | 5 | 5 | 4 | | | | | | |

第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略4 いじめの早期発見・早期対応

| | | | |
|-----|-----------------------|------|-------|
| 施策3 | 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実 | 記入所属 | 教育指導課 |
| 戦略4 | いじめの早期発見・早期対応 | | |

戦略の達成度を測る成果指標

| 成果 | No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | | R2 | | R3 | | R4 | | R5 | | R6 | | |
|-----|-----|-------|--|----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | | | | | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | |
| 成果1 | 1 | 教育指導課 | いじめに関するアンケートで「相談できる人がいる」に肯定的な回答をした小・中学生の割合 ※2月実施 | % | 実績値 | 99.3 | 98.6 | 99.6 | 98.1 | 99.4 | 97.9 | 99.6 | 98.4 | 99.3 | 98.4 | 98.4 | 97.1 |
| | | | | | 目標値 | - | - | 99.4 | 98.8 | 99.7 | 98.6 | 99.8 | 98.8 | 99.9 | 99.9 | 100 | 100 |
| | | | | | 達成率 | - | - | 100% | 99% | 100% | 99% | 99% | 99% | 99% | 98% | 98% | 97% |
| 成果2 | 2 | 教育指導課 | 小・中学校におけるいじめの解消率 | % | 実績値 | 67.8 | 75.5 | 77 | 77.4 | 83.8 | 84.9 | 74.5 | 79.6 | 79.3 | 81.1 | 75.2 | 78.7 |
| | | | | | 目標値 | - | - | 69 | 76.3 | 76.5 | 78 | 84 | 85 | 75 | 80 | 75 | 80 |
| | | | | | 達成率 | - | - | 112% | 101% | 110% | 109% | 89% | 94% | 106% | 101% | 100% | 98% |
| 成果3 | 3 | 教育指導課 | 「全国学力・学習状況調査」で「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う」に肯定的な回答をした小・中学生の割合 | % | 実績値 | 95.8 | 95.2 | - | - | 96.2 | 95.4 | 96.4 | 95.9 | 96.5 | 95.7 | 96.4 | 95.5 |
| | | | | | 目標値 | - | - | 96.5 | 96.0 | 96.8 | 96.7 | 97 | 97 | 98 | 98 | 100 | 100 |
| | | | | | 達成率 | - | - | - | - | 99% | 99% | 99% | 99% | 98% | 98% | 96% | 96% |

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
戦略4 いじめの早期発見・早期対応

| | |
|--------|--|
| めざす方向性 | いじめはどの学校でもどの子どもにも起こり得るとの認識の下、いじめに関する相談体制の充実や、学校と各関係機関における情報共有及び連携した対応により、いじめの早期発見・早期対応を図ります。 |
|--------|--|

所管による自己評価

| ■指標分析(達成状況・原因・その他実績等) | ■課題と今後の予定、方向性 |
|---|---|
| 肯定的な回答をした割合は高い値を維持しているものの、小・中学校ともに令和6年6月、11月と比べ減少している。特に、中学生の減少の割合が大きく、先生に相談できる生徒が減少している。 | <p>【課題】 不登校傾向、登校できても周囲と信頼関係を築くことができない児童・生徒への支援。</p> <p>【今後の予定・方向性】 相談しやすい環境づくりを推進し、全ての児童・生徒が安心して相談できる体制を築くため、教職員やスクールカウンセラーとの連携を強化するよう依頼する。校内だけでなく校外での相談先も周知し、学校で話しにくいことも相談できる手段を提示する。</p> |
| 小学校は目標値を上回ったが、中学校は下回った。昨年度比の数値としては小は4.1ポイント、中は2.4ポイント低下しているが、解消率は認知件数の減少と付随しての減少と考えられる。解消率の減少は、教職員が早期に適切な対応をし、年2回のふれあい月間の取組などのいじめ防止教育の充実、一人1台端末を活用したいじめ相談体制の強化により、軽微ないじめや初期段階のいじめが早期に対応されるケースが増え、認知件数が減少したことに要因がある。一方で、近年の経験の浅い教員の増加で、事案の解消まで支援できないことも原因と考えられる。 | <p>【課題】 ・増加傾向にある若手教員の対応力の向上をめざす。 ・正確な認知件数把握のため軽微な事案も件数として計上する。</p> <p>【今後の予定・方向性】 「いじめ早期発見・対策研修」を初任者研修の課題別研修に位置付け、若手教員の参加を促すことで、若手教員の対応力の向上を図る。特に、中学校においては認知件数が多くない学校があるため、生活指導担当者連絡会を通して、軽微な事案も計上するよう伝え、さらに解消率の向上を目指す。</p> |
| 前年度から微減の結果となった。95%以上が肯定的な回答をしている要因は、「児童・生徒主体のいじめ予防の取組」の推進、年3回(6月・11月・2月)の「いじめに関するアンケート調査」の実施、及び各校が毎月開催する「学校いじめ防止対策委員会」で認定した、いじめをまとめた一覧表を基に、早期発見・早期改善へつなげるなど、多角的な取組の結果が成果へと結び付いていることにある。 | <p>【課題】 約4%程度の否定的な回答をしている児童・生徒の実態についても把握し、改善につなげていく。</p> <p>【今後の予定・方向性】 区内小中学校における「児童・生徒主体のいじめ予防の取組」について、効果的な取組を区内小中学校へ共有し、いじめ予防の取組を推進する。ふれあい月間を中心に、児童・生徒主体のいじめの未然防止、早期発見・早期対応につながる具体的な取組を推進するよう各学校に依頼する。</p> |

第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略4 いじめの早期発見・早期対応

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|-----|-------|--|----|-----|-----|----|----|------|------|------|
| 活動1 | 教育指導課 | いじめ相談受付後、5日以内に対応した割合(令和6年度変更指標) | 件 | 実績値 | - | - | - | - | - | 98 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | 90 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | 109% |
| 活動2 | 教育指導課 | 重大事態発生時に、いじめ等問題対策委員会に諮問した割合(令和6年度変更指標) | 回 | 実績値 | - | - | - | - | - | 100 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | 100% |
| 活動3 | 教育指導課 | 「いじめ・自殺予防に関する研修会」への参加学校の割合(令和6年度変更指標) | % | 実績値 | - | - | - | - | - | 100 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | 100% |
| 活動4 | 教育指導課 | 教科等において、いじめ防止に関する指導を行う学校の割合(令和4年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 100% | 100% | 100% |

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略4 いじめの早期発見・早期対応

所管による自己評価

| ■指標分析(達成状況・原因・その他実績等) | ■課題と今後の予定、方向性 | 自己評価 | |
|--|--|------|---|
| <p>いじめ相談受付件数は148件(内訳/ネット受付128件、電話受付20件)であり、前年度の135件(内訳/ネット受付104件、電話受付31件)から増加している。電話受付が減少している一方で、ネット受付が大幅に増加しており、児童・生徒にとって些細な事柄でも伝えられる窓口になっている。</p> <p>5日以内に対応に至らなかったのは4件だけであり、いずれも生徒が登校せず聞き取りができなかったことや閉庁期間で対応が遅れたなどの理由である。</p> | <p>【課題】 早期に管理職との情報共有や解決への見通しの共有ができないと、対応に時間を要する場合が多い。また、いたずらメールが12件あり、確認の時間を要し課題となっている。</p> <p>【今後の予定・方向性】 早期に管理職と情報共有をし、学校の聞き取りや対応が適切に進むように働きかけ、5日以内の対応を推進する。</p> | 1 | A |
| <p>本年度は、令和5年度に発生した「いじめ重大事態」について、いじめ等問題対策委員会に諮問し、委員から意見をもらった。引き続き、いじめ重大事態発生時には、いじめの事実関係や学校の対応等が適切になされているかを、当委員会で確認をしていく。</p> | <p>【課題】 いじめ等問題対策委員会に諮問された内容を、事例として各種研修会等で各学校に十分に周知することができておらず活用できていない。</p> <p>【今後の予定・方向性】 定期的にいじめ等問題対策委員会を開催し、学校におけるいじめの防止、対応、相談、そして再発防止を目的とする組織として、機能するようにする。</p> | 2 | A |
| <p>令和6年度は、「いじめ防止研修会」を1回、「自殺防止研修会」を1回実施し、各校から1名以上を参加としたため、合計で255名の参加があり、目標値を上回る結果となった。初任者の受講人数は、「いじめ防止研修会」は74名、「自殺防止研修会」は86名となり、若手教員の参加も推進されている。</p> | <p>【課題】 いじめ・自殺予防には、組織的継続的な啓発が必要であり、幅広い職層に研修の機会を設けたい。しかし、「自殺防止研修会」は初任者や若手教員が参加者の大半を占めている。いじめ・自殺予防は組織的に取組を充実する必要があるため、より幅広い職層への参加を促していく。</p> <p>【今後の予定・方向性】 「自殺予防研修」を、副校長研修、中堅研修、初任者研修と各職層研修の中に組み込んで、より多様な教員が受講できるように実施する。</p> | 3 | A |
| <p>令和6年度も、全ての区立小中学校102校において指導を実施したため、目標値を満たす結果となった。</p> | <p>【課題】 引き続き各学校において、いじめ防止に関する指導を徹底する必要があるが、いじめ・自殺防止の取組を充実させるためには、児童・生徒の主体性を引き出す活動が求められている。</p> <p>【今後の予定・方向性】 日々の学校訪問や、いじめ早期発見・対応研修会、生活指導担当者連絡会において、「児童・生徒主体によるいじめ・自殺防止の取組」や優れた実践を紹介するなどして各校での取組の充実を図る。</p> | 4 | A |

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実
 戦略4 いじめの早期発見・早期対応

| 【点検・評価委員による評価】 | | | | | | | | | |
|---|--|------------------------------|--------------------------|------------------------------|--------------------------|---|---|---|---|
| 全体評価 | 今後の期待・要望 | | | | | | | | |
| <p>【目標・成果の達成状況】 それぞれの成果に対する課題が示されているものの概ね成果指標における目標達成に近い水準であり、学校数規模が多いにもかかわらず、(ネット環境の恩恵もあると思われるが)各校の取組の結果が出ていると思われる。</p> <p>【各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか】 達成率の高さも踏まえ、本取り組みは戦略の方向性に沿ったものであると考えられる。当然ながら、方向性に沿うかどうかの柱としては、この成果指標に出していない関連する課題を担当課がいかに捉えているかが伴う。 例えば、若手教員の“いじめ”やその対応の理解をいかに高めるか(成果2)、いじめ等問題対策委員会における諮問内容をいかに研修に活かしていくか(活動2)等である。これらの課題の理解、並びに対応策の展望がなければ、各指標の達成率は数値だけの価値でしかなくなってしまうかねない。 本指標においては、担当課がそれぞれの課題意識や展望を持っており、数値で示されている以上の情報を持った取り組みへつなげられる可能性がある。</p> <p>【児童・生徒にとって真に効果的か】 「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う」に肯定的な回答をほとんどの児童・生徒がしているのにもかかわらず、いじめが尽きることはない。これは観念的な理解と実際的な状況を含めた理解との違いが関与しているのであろう。日々の体験と主体的ないじめ等防止の取組(つまり教育)により、子ども達におけるいじめの深い理解へつながり、それが早期発見、早期対応等の取組みへ結んでいくと推察される。 一方、いじめが発生した後の対応はとても重要な視点であるが、そもそものいじめの認識やその温かな対処には、相手の立場に立つことという難しい視点が求められる。このような人権感覚は、多様な人々が共生する地域社会の営みにおいても求められる感覚である。そのような人権感覚を醸成することは単に“いじめ”というカテゴリーの教育の範疇だけからではない。真に効果的であるかどうかは、本成果における大人側の対処(早期発見・早期対応)を超えた点にあるとも思える。現段階は、そのプロセスの一つと捉えるべきだろう。</p> | <p>担当課においては、各指標における課題を捉えており、今後の進展が期待できる。例えば、いじめと認知する基準に関して各校の差が出ていることから、今後、報告基準(つまり認知基準)の標準化(軽微なものもいじめと判断して報告するアナウンス等)に取り組むとのこと等が挙げられた。 また成果3では、約4%程度はいじめに対する否定的な回答者が出たが、法律におけるいじめの解釈はとても広いものであり、必ずしも加害者とされた者には納得できない点が出てくる可能性がある。この点については、保護者を含めた大人側のあり方が大いに関与する点もあり、一概に“いじめ認定”と“加害者認定”を結びつけることには無理があることがある。 このことについては、間違った考えを正しいと思い込んでしまうシンキングエラー等の学習そのものをしていなければ、そもそもの『いじめではない』という認識でいじめをしてしまうこともある。つまり、教育側や大人側の伝達のあり方によりいじめが発生してしまうこともあるのである。 担当課側の課題意識はこれらを踏まえて期待できるものであり、困難な点があっても継続的な検討をしてもらいたい。</p> | | | | | | | | |
| <p>全体評価レーダーチャート</p> | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th> <th style="width: 25%;">【観点2】 目標・成果の達成状況</th> <th style="width: 25%;">【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか</th> <th style="width: 25%;">【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="font-size: 2em;">6</td> <td style="font-size: 2em;">6</td> <td style="font-size: 2em;">6</td> <td style="font-size: 2em;">5</td> </tr> </tbody> </table> | | 【観点1】 助言・今後の期待への反映率 | 【観点2】 目標・成果の達成状況 | 【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか | 【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か | 6 | 6 | 6 | 5 |
| 【観点1】 助言・今後の期待への反映率 | 【観点2】 目標・成果の達成状況 | 【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか | 【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か | | | | | | |
| 6 | 6 | 6 | 5 | | | | | | |

第3章 評価シート（実績値）

本章では今年度の評価対象外である以下の 4 つの施策における達成状況を掲載しております。

- ・ 施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援
- ・ 施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
- ・ 施策4 快適に学べる教育施設の整備と運営の充実
- ・ 施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援

施策 1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援

| | |
|--------------------|----|
| 戦略 1 豊かな心の育成····· | 61 |
| 戦略 2 健やかな体の育成····· | 65 |

第3章 評価シート(実績値)

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援

戦略1 豊かな心の育成

| | | | |
|--------|--|------|-------------------------------|
| 施策1 | 児童・生徒の心身の健全な発達の支援 | 記入所属 | 教育指導課 学務課 青少年課 地域文化課 |
| 戦略1 | 豊かな心の育成 | | |
| めざす方向性 | 人権教育を推進して人権尊重の意識の向上を図るとともに、道徳教育や様々な体験活動を通じて、基本的な生活習慣や規範意識を確実に身につける指導・支援を行います。 人間としての尊厳、自他の生命の尊重、倫理観などの道徳性を養い、法やルールを遵守する意味を理解し、主体的に判断し、適切に行動できる人の育成をめざします。 | | |

戦略の達成度を測る成果指標

| 成果 | No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | | R2 | | R3 | | R4 | | R5 | | R6 | | |
|-----|-----|-------|--|----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | | | | | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | |
| 成果1 | 1 | 教育指導課 | 「足立区学力定着に関する総合調査」で小学生及び中学生が「自分にはよいところがあると思う」に肯定的な回答をした割合 | % | 実績値 | 72 | 62 | - | - | 73.7 | 67.6 | 75.2 | 68.6 | 77.8 | 69.8 | 78.7 | 72.4 |
| | | | | | 目標値 | - | - | 73 | 63.3 | 73.4 | 64 | 74.7 | 65.9 | 75 | 68 | 78 | 70 |
| | | | | | 達成率 | - | - | - | - | 100% | 106% | 101% | 104% | 104% | 103% | 101% | 103% |
| 成果2 | 2 | 教育指導課 | 「全国学力・学習状況調査」で小学6年生及び中学3年生が「人の役に立つ人間になりたいと思う」に肯定的な回答をした割合 | % | 実績値 | 93 | 92.3 | - | - | 93.6 | 93.2 | 94.1 | 93.3 | 95.4 | 93.6 | 94.6 | 93.8 |
| | | | | | 目標値 | - | - | 93.5 | 92.8 | 93.5 | 93 | 94 | 93.6 | 94.5 | 94 | 96 | 95 |
| | | | | | 達成率 | - | - | - | - | 100% | 100% | 100% | 100% | 101% | 100% | 99% | 99% |
| 成果3 | 3 | 教育指導課 | 「足立区学力定着に関する総合調査」で小学6年生及び中学3年生が「学校のきまりを守っている」に肯定的な回答をした割合(※) | % | 実績値 | 86.3 | 93.3 | - | - | / | / | / | / | 87 | 94.7 | 84.8 | 95.3 |
| | | | | | 目標値 | - | - | 86.9 | 93.6 | 87.2 | 93.7 | 87.6 | 93.8 | 88 | 94 | 90 | 95 |
| | | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | - | - | - | 99% | 101% | 94% | 100% |
| 成果4 | 4 | 教育指導課 | 研修会のアンケートで「研修の内容は学校での実践に活用できる」に肯定的な回答をした割合(令和4年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | - | - | - | 95.1 | 95.4 | 98.3 | | | |
| | | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | - | 100 | 100 | 100 | | | |
| | | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | - | 95% | 95% | 98% | | | |

※1 「全国学力・学習状況調査」から当該設問が削除されたため、令和5年度より調査元を「足立区学力定着に関する総合調査」に変更した。

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援
 戦略1 豊かな心の育成

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|-----|-------|----------------------------------|----|-----|-----|------|------|------|------|------|
| 活動1 | 教育指導課 | 教員対象の人権教育の研修会の参加小・中学校の割合【参加延べ人数】 | % | 実績値 | 100 | 96.3 | 92.3 | 102 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | 100 | 97.2 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 96% | 95% | 102% | 100% | 100% |
| | | | 人 | 実績値 | 291 | 130 | 96 | 105 | 218 | 375 |
| | | | | 目標値 | - | 294 | 294 | 103 | 102 | 102 |
| | | | | 達成率 | - | 44% | 33% | 102% | 214% | 368% |
| 活動2 | 教育指導課 | 生命の安全教育に関する授業を実施している学校の割合 | % | 実績値 | - | - | - | - | - | 100 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | 100% |
| 活動3 | 教育指導課 | 道徳授業地区公開講座実施の小・中学校の割合 | % | 実績値 | 100 | 7.7 | 33.7 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 8% | 34% | 100% | 100% | 100% |

第3章 評価シート(実績値)

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援

戦略1 豊かな心の育成

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | |
|-----|-------|---|----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|-------|
| 活動4 | 学務課 | 自然教室における各学校の体験活動数の合計(野菜の収穫、日光彫、田植え・稲刈り、笹団子づくり、磯の生物観察、文化遺産見学、ハイキング等) | 回 | 実績値 | 905 | 205 | 525 | 1,072 | 928 | 997 |
| | | | | 目標値 | - | 905 | 905 | 905 | 905 | 905 |
| | | | | 達成率 | - | 23% | 58% | 118% | 103% | 110% |
| 活動5 | 教育指導課 | 職場体験を実施している中学校の割合(令和4年度新規追加指標) 【再掲】 | % | 実績値 | 100 | - | 2.9 | 45.7 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | 3% | 46% | 100% | 100% |
| 活動6 | 青少年課 | 区内の小・中学校及びこども園を訪問し、音楽教育支援活動としての音楽鑑賞会及びワークショップ、音楽科授業の指導補助、部活動の指導補助などの開催校となった「こども園」・「小学校」・「中学校」の割合(令和4年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | 40 | 50 | 41 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 52 | 52 | 53 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 77% | 96% | 77% |
| 活動7 | 地域文化課 | 芸術鑑賞体験事業の参加者数(令和5年度指標名変更) | % | 実績値 | - | - | - | 4,948 | 4,765 | 4,739 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 5,187 | 5,101 | 4,957 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 95% | 93% | 96% |

第3章 評価シート(実績値)

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援
 戦略2 健やかな体の育成

| | | | |
|--------|--|------|---|
| 施策1 | 児童・生徒の心身の健全な発達の支援 | 記入所属 | 教育指導課 学力定着推進課 学務課 おいしい給食担当課 子ども政策課 子ども施設指導・支援課 |
| 戦略2 | 健やかな体の育成 | | |
| めざす方向性 | 足立区の子どもの健康状態については改善傾向が見られるものの、むし歯被患率や小児生活習慣病の有所見者率は依然として高く、一層の改善に向けた取り組みが必要です。今後は、保健教育の一層の充実を通じて、児童・生徒が身近な生活における健康に関する知識を身につけることや、必要な情報を収集し、適切な意思決定や行動選択を行い、健康な生活を実践する力を育成していきます。 幼い頃から楽しく体を動かす体験や様々な動きを経験することにより、生涯にわたって積極的に運動・スポーツに親しむ習慣や意欲、能力を育みます。加えて、運動を通じて体力の向上を図るとともに、望ましい食習慣など健康的な生活習慣を形成する取り組みを積極的に進めます。 | | |

戦略の達成度を測る成果指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | | | | | | | | | |
|-----|--------|--|----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 成果1 | 教育指導課 | 研修会のアンケートで「研修の内容は学校での実践に活用できる」に肯定的な回答をした割合(令和4年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | 95.1 | 95.4 | 98.3 | | | | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 100 | 100 | 100 | | | | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 95% | 95% | 98% | | | | | | | | |
| 成果2 | 学務課 | 小・中学生の適正体重割合(令和4年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | 94.6 | 83.6 | 83.6 | 94.1 | 81.8 | 83.8 | 94.3 | 82.5 | 84 | 94.3 | 82.7 | 83.9 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 94.4 | 83.4 | 85.1 | 95 | 83 | 85 | 95.5 | 84.6 | 86.8 | | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 100% | 98% | 98% | 99% | 99% | 99% | 99% | 98% | 97% | | |
| 成果3 | 学務課 | 小児生活習慣病予防健診結果における管理不要率(中学2年生) ※令和4年度点検及び評価より男女別に変更した。 | % | 実績値 | 77 | 74.9 | 78.8 | 67 | 78.1 | 68.9 | 78.2 | 72.4 | 80.6 | 71 | | | | |
| | | | | 目標値 | - | 77.3 | 80.2 | 70.7 | 80.8 | 71.4 | 80 | 72 | 82.1 | 72.8 | | | | |
| | | | | 達成率 | - | 97% | 98% | 95% | 97% | 96% | 98% | 101% | 98% | 98% | | | | |
| 成果4 | 子ども政策課 | むし歯のある就学前児童(年長児)の割合 *低減目標 | % | 実績値 | 33.1 | 29.3 | 23.9 | 22.7 | 21.6 | 19.3 | | | | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | 32.3 | 29 | 28 | 28 | 28 | | | | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | 110% | 121% | 123% | 130% | 145% | | | | | | | | |

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援
 戦略2 健やかな体の育成

戦略の達成度を測る成果指標

| 成果 | No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | | R2 | | R3 | | R4 | | R5 | | R6 | | | |
|-----|-----|-----|--|----|-----|----|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| | | | | | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | | |
| 成果5 | 5 | 学務課 | むし歯のある児童・生徒の割合 *低減目標 | % | 実績値 | 43 | 33 | 38.7 | 30.9 | 38 | 30.8 | 36.1 | 29.5 | 33.1 | 28.5 | 30.8 | 27.7 | |
| | | | | | 目標値 | - | - | 41.8 | 32.7 | 38.7 | 30.9 | 38 | 30.8 | 33 | 29 | 36 | 31 | |
| | | | | | 達成率 | - | - | 108% | 106% | 102% | 100% | 105% | 104% | 100% | 102% | 117% | 112% | |
| 成果6 | 6 | 学務課 | 「足立区学力定着に関する総合調査」で「朝と夜、歯みがきをしていますか」に「朝と夜している」と回答した割合(令和3年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | - | 76.1 | 86.6 | 76.2 | 85.2 | 74.2 | 85.1 | 73.6 | 85.9 | |
| | | | | | 目標値 | - | - | - | - | 75 | 86 | 76.1 | 86.6 | 76.2 | 85.2 | 77 | 87 | |
| | | | | | 達成率 | - | - | - | - | 101% | 101% | 100% | 98% | 97% | 100% | 96% | 99% | |
| 成果7 | 7 | 学務課 | 「全国学力・学習状況調査」で小学6年生及び中学3年生が「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」に肯定的な回答をした割合(令和6年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 84.2 | 84.7 | |
| | | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 85 | 85 |
| | | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 99% |

成果指標を達成するための活動指標

| 活動 | No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | |
|-----|-----|-------|-----------------------|----|-----|------|------|------|------|------|------|
| | | | | | 実績値 | 77.9 | 83.7 | 85.5 | 0 | 87.3 | 79.4 |
| 活動1 | 1 | 教育指導課 | 養護教諭対象の研修会参加の小・中学校の割合 | % | 目標値 | - | 81.6 | 87.8 | 91.5 | 91.5 | 100 |
| | | | | | 達成率 | - | 103% | 97% | - | 95% | 79% |
| | | | | | 実績値 | 89.5 | 86.6 | 85.8 | 81.3 | 78.8 | 82.5 |
| 活動2 | 2 | 学務課 | 貧血・小児生活習慣病予防健診受診率(中2) | % | 目標値 | - | 90.1 | 90.1 | 90.1 | 90 | 93 |
| | | | | | 達成率 | - | 96% | 95% | 90% | 88% | 89% |

第3章 評価シート(実績値)

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援
 戦略2 健やかな体の育成

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | | R2 | | R3 | | R4 | | R5 | | R6 | | | | |
|------|--------|--|-----|-----|------|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|-----|
| | | | | 実績値 | 目標値 | 達成率 | 実績値 | 目標値 | 達成率 | 実績値 | 目標値 | 達成率 | 実績値 | 目標値 | 達成率 | 実績値 | 目標値 | 達成率 |
| 活動 3 | 子ども政策課 | 年少児から給食後の歯みがき(毎日)に取り組む園の数 | 園 | 実績値 | 132 | 42 | 34 | 39 | 82 | 85 | | | | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | 145 | 145 | 70 | 130 | 210 | | | | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | 29% | 23% | 56% | 63% | 40% | | | | | | | | |
| 活動 4 | 子ども政策課 | 「歯みがき指導」を実施する教育・保育施設の割合(令和6年度新規追加指標) | % | | 区保 | 私保 | 区保 | 私保 | 区保 | 私保 | 区保 | 私保 | 区保 | 私保 | 区保 | 私保 | | |
| | | | | 実績値 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 97 | 88 | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 100 | 100 | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 97% | 88% | |
| | | | | | 公保 | 幼 | 公保 | 幼 | 公保 | 幼 | 公保 | 幼 | 公保 | 幼 | 公保 | 幼 | 公保 | 幼 |
| | | | | 実績値 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 93 | 74 | |
| 目標値 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 100 | 70 | | | | | |
| 達成率 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 93% | 106% | | | | | |
| 活動 5 | 子ども政策課 | 歯科健診で治療・相談が必要な子ども(年少児～年長児)のうち、医療機関を受診した子どもの割合(令和5年度新規追加指標) | 園 | 実績値 | - | - | - | - | 76 | 75 | | | | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | 70 | 72 | | | | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 109% | 104% | | | | | | | | |
| 活動 6 | 学務課 | 給食後の歯みがき(全学年・毎日)を実施する小・中学校の割合 | % | | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | | |
| | | | | 実績値 | 67 | 11 | 14.7 | 5.9 | 11.6 | 8.6 | 13.2 | 8.6 | 25.4 | 11.4 | 59.7 | 23.5 | | |
| | | | | 目標値 | - | - | 72.5 | 17.5 | 72.5 | 17.5 | 20 | 12 | 20 | 12 | 100 | 50 | | |
| 達成率 | - | - | 20% | 34% | 16% | 49% | 66% | 72% | 127% | 95% | 60% | 47% | | | | | | |
| 活動 7 | 学務課 | 歯科健診でむし歯があった児童・生徒のうち、医療機関を受診した子どもの割合(令和4年度新規追加指標) | % | | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | | |
| | | | | 実績値 | - | - | - | - | 56.4 | 26.3 | 55.9 | 27.7 | 53.6 | 30.5 | 56.5 | 32.5 | | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | 50 | 28 | 58 | 28 | 58 | 30 | 61 | 36 | | |
| 達成率 | - | - | - | - | 113% | 94% | 96% | 99% | 92% | 102% | 93% | 90% | | | | | | |

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援
 戦略2 健やかな体の育成

戦略の達成度を測る成果指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | | R2 | | R3 | | R4 | | R5 | | R6 | | |
|---------|-----------|---|----|-----|----|-----|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | | | 中2 | 小6 | 中2 | 小6 | 中2 | 小6 | 中2 | 小6 | 中2 | 小6 | 中2 | 小6 | |
| 成果 8 | おいしい給食担当課 | ごはん、みそ汁、目玉焼き程度の料理を自分で作ることができる子どもの割合(中学2年生)※小学6年生は、ごはん、みそ汁を自分で作ることができる割合 | % | 実績値 | 75 | 78 | 70 | 62 | 70 | 61 | 70 | 67 | 58 | 46 | 56 | 45 |
| | | | | 目標値 | - | 80 | 79.2 | 81.7 | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 98% | 88% | 76% | 78% | 68% | 78% | 74% | 64% | 51% | 56% | 45% |
| 成果 9 | おいしい給食担当課 | 給食のときに自ら一番はじめに野菜を食べる割合 | % | 実績値 | 56 | 57 | 59 | 62 | 60 | 59 | 63 | 66 | 62 | 66 | 65 | 66 |
| | | | | 目標値 | - | 70 | 63.3 | 64.2 | 70 | 70 | 70 | 70 | 70 | 70 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 81% | 93% | 97% | 86% | 84% | 90% | 94% | 89% | 94% | 65% | 66% |

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | | R2 | | R3 | | R4 | | R5 | | R6 | | |
|----------|---------------------------------|---|-----|-----|-------|----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|------|-------|------|
| | | | | 園 | 小中 | 園 | 小中 | 園 | 小中 | 園 | 小中 | 園 | 小中 | 園 | 小中 | |
| 活動 8 | 【園】子ども施設指導・支援課 【小中】おいしい給食担当課 | 「ひと口目は野菜から」の取り組みを実施した就学前教育・保育施設数及び小・中学校数 ※ 平成30年度 就学前教育・保育施設 142園 小・中学校 104校 ※ 令和6年度 就学前教育・保育施設 222園 小・中学校 102校 | 園・校 | 実績値 | 106 | 97 | 156 | 80 | 167 | 95 | 174 | 91 | 175 | 102 | 183 | 102 |
| | | | | 目標値 | - | - | 120 | 104 | 168 | 104 | 170 | 103 | 180 | 102 | 190 | 102 |
| | | | | 達成率 | - | - | 130% | 77% | 99% | 91% | 102% | 88% | 97% | 100% | 96% | 100% |
| 活動 9 | おいしい給食担当課 | 「給食メニューコンクール」応募作品数 | 作品 | 実績値 | 7,072 | | 4,884 | | 7,214 | | 7,221 | | 8,010 | | 7,693 | |
| | | | | 目標値 | - | | 7,100 | | 7,100 | | 7,300 | | 7,300 | | 7,500 | |
| | | | | 達成率 | - | | 69% | | 102% | | 99% | | 110% | | 103% | |
| 活動 10 | おいしい給食担当課 | 長期休み期間に「わが家のシェフになろう！」で子どもたちが実際に調理した食数 | 食 | 実績値 | 7,373 | | 8,602 | | 7,532 | | 6,317 | | 6,430 | | 7,937 | |
| | | | | 目標値 | - | | 9,818 | | 9,780 | | 9,524 | | 9,352 | | 9,900 | |
| | | | | 達成率 | - | | 88% | | 77% | | 66% | | 69% | | 80% | |

第3章 評価シート(実績値)

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援
 戦略2 健やかな体の育成

戦略の達成度を測る成果指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | | R2 | | R3 | | R4 | | R5 | | R6 | | |
|----------|-------|---|----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | | | | 小5 | 中2 | 小5 | 中2 | 小5 | 中2 | 小5 | 中2 | 小5 | 中2 | 小5 | 中2 | |
| 成果 10 | 教育指導課 | 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」で「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好き」に肯定的な回答をした割合 | % | 実績値 | 93.3 | 86.6 | - | - | 62.5 | 57.2 | 92.7 | 87.6 | 87.9 | 81.2 | 92.8 | 89.1 |
| | | | | 目標値 | - | - | 93.4 | 87 | 93.5 | 87.2 | 93.6 | 87.8 | 93.7 | 88.4 | 94 | 89 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 67% | 66% | 99% | 100% | 94% | 92% | 99% | 100% |
| | | | | 実績値 | 87.8 | 77.8 | - | - | 50.1 | 41.5 | 85.8 | 77.2 | 84.1 | 74.8 | 87.6 | 77.3 |
| | | | | 目標値 | - | - | 87.8 | 78 | 87.9 | 78.1 | 87.9 | 78.3 | 87.9 | 78.5 | 88 | 79 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 57% | 53% | 98% | 99% | 96% | 95% | 100% | 98% |
| 成果 11 | 教育指導課 | 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の体力調査のボール投げの平均値 | m | 実績値 | 20.6 | 19.8 | - | - | 19.1 | 19.4 | 19.4 | 19.3 | 19.2 | 20.2 | 19.6 | 20.2 |
| | | | | 目標値 | - | - | 20.9 | 20 | 21.1 | 20.1 | 21.3 | 20.3 | 21.5 | 20.3 | 22.5 | 21 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 91% | 97% | 91% | 95% | 89% | 100% | 87% | 96% |
| | | | | 実績値 | 13 | 11.9 | - | - | 12.7 | 12 | 12.4 | 11.6 | 12.6 | 11.5 | 12.5 | 11.9 |
| | | | | 目標値 | - | - | 13.2 | 12.1 | 13.3 | 12.2 | 13.5 | 12.4 | 13.5 | 12.4 | 14 | 13 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 95% | 98% | 92% | 94% | 93% | 93% | 89% | 92% |
| 成果 12 | 教育指導課 | 「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」で「運動やスポーツをどのくらいしていますか(学校の体育の授業は除く)」に「週1日以上運動している」と回答した割合(令和4年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | - | 78.7 | 72 | 82.7 | 77.6 | 84.7 | 85.8 | 83.1 | 78.1 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | 81.6 | 71.6 | 82.4 | 72.7 | 83.6 | 74.6 | 84.6 | 74.6 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 96% | 101% | 100% | 107% | 101% | 115% | 98% | 105% |

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | |
|----------|-------|--------------------------------------|----|-----|-----|------|------|------|------|------|
| 活動 11 | 教育指導課 | 体力向上推進計画実施の小・中学校の割合 | % | 実績値 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| 活動 12 | 教育指導課 | オリンピック・パラリンピックに関連した取り組みを実施した小・中学校の割合 | % | 実績値 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援
 戦略2 健やかな体の育成

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|--------------|-------------|--|----|-----|------|------|-----|------|------|------|
| 活動 1 3 | 教育指導課 | 「足立区小学生長なわ・短なわチャレンジ」の実施校の割合 | % | 実績値 | 95.6 | 50.7 | 50 | 91.5 | 92.5 | 92.5 |
| | | | | 目標値 | - | 96.3 | 51 | 70 | 95 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 53% | 98% | 131% | 97% | 93% |
| 活動 1 4 | 子ども施設指導・支援課 | 年齢別研修のうち、集合研修(運動)への参加割合(保育士、幼稚園教諭)対象施設=区立園30園、私立園293園 目標値=募集人数の7割程度を想定(令和4年度変更指標) | % | 実績値 | - | - | - | 58.3 | 48.3 | 68.5 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 70 | 70 | 70 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 83% | 69% | 98% |
| 活動 1 5 | 子ども施設指導・支援課 | 年間を通じて幼児の身体を動かす遊びをする時間が一日1時間以上の就学前施設の割合(公私立園)(令和4年度新規追加・令和6年度指標名変更) | % | 実績値 | - | - | 64 | 89.2 | 90.3 | 84.5 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 70 | 90 | 90 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 127% | 100% | 94% |

施策 2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み

| | |
|------------------------------------|----|
| 戦略 1 教員の授業力向上 -「わかる授業」「魅力ある授業」の実現- | 73 |
| 戦略 2 個に応じた学習指導・学習機会の充実…………… | 77 |
| 戦略 3 就学前教育の推進…………… | 81 |

第3章 評価シート(実績値)

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
 戦略1 教員の授業力向上-「わかる授業」「魅力ある授業」の実現-

| | | | |
|--------|--|------|------------------------------|
| 施策2 | 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み | 記入所属 | 学校ICT推進課 学力定着推進課 教育指導課 |
| 戦略1 | 教員の授業力向上-「わかる授業」「魅力ある授業」の実現- | | |
| めざす方向性 | 学校における教育活動の根幹は「わかる授業」「魅力ある授業」です。これらを実現するため、教員の授業力向上や授業改善の支援に取り組む必要があります。 従来の教員研修やOJTによる育成をはじめ、高い専門性や指導経験を備えた教員経験者による指導、授業改善ツールとしての足立スタンダードやSP表の活用と充実を図り、教員の授業力向上を支えます。 また、大型ディスプレイやタブレット型PC、デジタル教科書などの学校ICT機器等を活用し、より魅力的でわかりやすい授業を実現できる環境づくりを進めます。 | | |

戦略の達成度を測る成果指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | | R2 | | R3 | | R4 | | R5 | | R6 | | | |
|-----|----------|--|----|------|------|------|---|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | | | | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | | |
| 成果1 | 学力定着推進課 | 「足立区学力定着に関する総合調査」で「学校の授業はわかる」に肯定的な回答をした割合 | % | 実績値 | 89.3 | 73.9 | - | - | 88.2 | 68.1 | 87.7 | 67.4 | 87.9 | 66.5 | 87.7 | 64.5 | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | 90 | 80 | 90 | 80 | 90 | 80 | 90 | 80 | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 98% | 85% | 97% | 84% | 98% | 83% | 97% | 81% | |
| 成果2 | 学力定着推進課 | 「全国学力・学習状況調査」における国の正答率との差(※1) | % | 国 | 実績値 | ※2 | | - | - | 4.5 | -0.4 | 1.5 | -3.3 | 0.7 | -0.5 | -2.0 | -0.6 |
| | | | | | 目標値 | - | - | - | - | 2 | 0.5 | 3 | 1 | 3 | 0 | 5 | 2 |
| | | | | | 達成率 | - | - | - | - | 104% | 99% | 98% | 94% | 97% | 99% | 90% | 97% |
| | | | | 算(数) | 実績値 | ※2 | | - | - | 2.6 | -2 | 1.8 | -2.1 | 1.3 | -3 | 1.0 | -0.6 |
| | | | | | 目標値 | - | - | - | - | 1.5 | 0 | 2 | 0.5 | 2 | 0.5 | 3 | 1 |
| | | | | | 達成率 | - | - | - | - | 102% | 97% | 100% | 94% | 99% | 93% | 96% | 97% |
| 成果3 | 学校ICT推進課 | 「足立区学力定着に関する総合調査」で、「グループ活動やペア活動では、自分から積極的に発言したり、みんなで意見を出し合うことができたと思う」に肯定的な回答をした割合(令和元年度より実施) | % | 実績値 | - | - | - | - | 74.3 | 65.9 | 74.3 | 66.9 | 75.1 | 68.3 | 76.1 | 67.9 | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | 72.5 | 63.5 | 75 | 65 | 75 | 70 | 80 | 70 | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 102% | 104% | 99% | 103% | 100% | 98% | 95% | 97% | |

※1 成果指標2の達成率の算出方法
 $\text{区正答率} \div (\text{国正答率} + \text{目標値}) \times 100$

※2 平成30年度「全国学力・学習状況調査」における国の正答率との差
 <小学6年生> <中学3年生>
 国語A 0% 国語A -1.5%
 国語B 3% 国語B -1.1%
 算数A 2.9% 算数A -2.4%
 算数B 1.4% 算数B -2.7%

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
 戦略1 教員の授業力向上-「わかる授業」「魅力ある授業」の実現-

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | | R2 | | R3 | | R4 | | R5 | | R6 | |
|---------|----------|---|----|-----|---|----|---|----|---|----|---|------|------|------|------|
| | | | | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 |
| 成果 4 | 学校ICT推進課 | 「足立区学力定着に関する総合調査」で、「インターネットや図書等から必要な情報を集めて整理できる」に肯定的な回答をした割合(令和5年度変更指標) | % | 実績値 | - | - | - | - | - | - | - | 66.1 | 62.0 | 65.5 | 60.5 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | - | - | 70 | 70 | 70 | 70 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | - | - | 94% | 89% | 94% | 86% |

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | | R2 | | R3 | | R4 | | R5 | | R6 | | |
|---------|---------|---|-----|-----|--------|----------|--------|--------|--------|--------|------|------|------|------|------|------|
| | | | | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | |
| 活動 1 | 教育指導課 | 「足立スタンダード」実践の小・中学校の割合 | % | 実績値 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | |
| | | | | 目標値 | - | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | |
| | | | | 達成率 | - | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | |
| 活動 2 | 学力定着推進課 | 教科指導の対象となる教員が教科指導専門員から受けた指導の回数(教員一人あたり) | 回/人 | 実績値 | 9.9 | 17.6 | 7.9 | 13.8 | 7.1 | 12.8 | 6.6 | 14.7 | 9.0 | 13.9 | 9.3 | 10.4 |
| | | | | 目標値 | - | - | 10 | 20 | 10 | 20 | 10 | 20 | 10 | 20 | 10 | 20 |
| | | | | 達成率 | - | - | 79% | 69% | 71% | 64% | 66% | 74% | 90% | 70% | 93% | 52% |
| 活動 3 | 学力定着推進課 | 英語教育アドバイザーの配置(支援)時数(小学校外国語活動アドバイザーより名称変更) | 時数 | 実績値 | 13,557 | 14,267.5 | 12,033 | 11,438 | 6113 | 4397 | | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | 24,646 | 24,451 | 24,255 | 24,426 | 24,941 | | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | 58% | 49% | 47% | 25% | 18% | | | | | | |
| 活動 4 | 教育指導課 | 教員1年次宿泊研修(任意研修)の参加割合(令和6年度変更指標) | % | 実績値 | - | - | - | - | - | - | 86.2 | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | 90 | | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | 96% | | | | | | |

第3章 評価シート(実績値)

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
 戦略1 教員の授業力向上-「わかる授業」「魅力ある授業」の実現-

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | | R2 | | R3 | | R4 | | R5 | | R6 | | | |
|-----|----------|---|----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| | | | | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | | |
| 活動5 | 学力定着推進課 | 先進自治体への教員派遣人数 | 人 | 実績値 | 12 | - | - | - | - | 12 | 12 | | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | 100% | 100% | | | | | | |
| 活動6 | 学校ICT推進課 | 教員用タブレット端末等を使用して授業を実施した教員の割合(令和元年度より実施)(令和4年度目標値変更指標)(※1) | % | 実績値 | - | - | 85.4 | 82.1 | 94.3 | 89.5 | 77.6 | 66.7 | 78.3 | 67.8 | 79.7 | 71.1 | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | 80 | 80 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 118% | 112% | 78% | 67% | 78% | 68% | 80% | 71% | |
| 活動7 | 学校ICT推進課 | 児童・生徒用タブレット端末を使用して授業を実施した教員の割合(令和元年度より実施)(※2) | % | 実績値 | - | - | 41 | 16.9 | 76.3 | 50.1 | 91.2 | 27.6 | 94.5 | 33.2 | 95.9 | 41.6 | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | 80 | 50 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 95% | 100% | 91% | 28% | 95% | 33% | 96% | 42% | |
| 活動8 | 学校ICT推進課 | プログラミング教育の実施回数(タブレット端末使用・教員の割合)(※3) | % | 実績値 | - | - | 80.7 | 94.3 | 68.9 | 97.2 | 79.5 | 82.6 | 49.2 | 78.3 | 50.9 | 91.3 | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | 80 | 80 | 80 | 80 | 80 | 80 | 80 | 80 | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 86% | 122% | 99% | 103% | 62% | 98% | 64% | 114% | |
| 活動9 | 学力定着推進課 | 小中連携による学力向上に係る研究・研修会の実施回数 | 回 | 実績値 | 245 | 67 | 227 | 226 | 243 | 286 | | | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | 245 | 245 | 245 | 245 | 245 | | | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | 27% | 93% | 92% | 99% | 117% | | | | | | | |

※1 教員用タブレット端末等を使用して授業を実施・・・「小学校:担任する学級において、週5時間以上」、
 「中学校:担当する全学級において、国語・数学・英語・社会・理科の担当教員が週5時間以上」

※2 児童・生徒用タブレット端末を使用して授業を実施・・・「小学校:担任する学級において、週1回以上」、
 「中学校:担当する全学級において、国語・数学・英語・社会・理科の担当教員が週3時間以上」

※3 プログラミング教育の実施・・・「小学校:小学5～6年生の学級担任が担任する学級で、総合的な学習の時間またはいずれかの教科において教員用または児童用タブレット端末を用いての実施が年間2時間以上」、「中学校:技術の担当教員が担当する全学級で、情報の科目において教員用または生徒用タブレット端末を用いての実施が年間2時間以上」

第3章 評価シート(実績値)

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
 戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実

| | | | |
|--------|--|------|--------------------------------------|
| 施策2 | 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み | 記入所属 | 教育政策課 教育指導課 学力定着推進課 生活支援推進課 |
| 戦略2 | 個に応じた学習指導・学習機会の充実 | | |
| めざす方向性 | 各種の学力調査結果を分析し、児童・生徒の学力実態を踏まえ、データに基づいた適切な学習指導を継続して行います。放課後や長期休業期間を活用した補習体制の充実や、学習支援等の人材配置、民間教育事業者の活用により、つまずきの解消による学力未定着層の底上げや、学力上位層のさらなる学力向上を図ります。 また、全ての子どもたちが家庭環境や経済状況に左右されることなく、自分の能力・可能性を伸ばし、夢に挑戦できるよう、学びの環境整備や居場所の確保等を図ります。 | | |

戦略の達成度を測る成果指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | | R2 | | R3 | | R4 | | R5 | | R6 | | | |
|-----|---------|---|----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | | | | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | | |
| 成果1 | 学力定着推進課 | 「足立区学力定着に関する総合調査」における小・中学校の区全体の通過率 | % | 国 | 実績値 | 78.4 | 63.1 | - | - | 83.1 | 68.1 | 83.1 | 68 | 83.7 | 70.2 | 82.8 | 71 |
| | | | | | 目標値 | - | - | - | - | 80 | 70 | 80 | 70 | 80 | 70 | 80 | 70 |
| | | | | | 達成率 | - | - | - | - | 104% | 97% | 104% | 97% | 105% | 100% | 104% | 101% |
| | | | | 算・数 | 実績値 | 79.1 | 59.4 | - | - | 84.9 | 68.6 | 84.3 | 67.4 | 83.8 | 67.6 | 82.4 | 65.8 |
| | | | | | 目標値 | - | - | - | - | 80 | 70 | 80 | 70 | 80 | 70 | 80 | 70 |
| | | | | | 達成率 | - | - | - | - | 106% | 98% | 105% | 96% | 105% | 97% | 103% | 94% |
| | | | | 英 | 実績値 | / | 52.4 | / | - | / | 65.4 | / | 62.6 | / | 63.1 | / | 64.6 |
| | | | | | 目標値 | / | - | / | - | / | 70 | / | 70 | / | 70 | / | 70 |
| | | | | | 達成率 | / | - | / | - | / | 93% | / | 89% | / | 90% | / | 92% |
| 成果2 | 学力定着推進課 | 英語チャレンジ講座の事後テスト結果が事前テスト結果を上回った生徒の割合(令和4年度より指標名変更) | % | 実績値 | 83.5 | 97.8 | 93.5 | 97 | 96.3 | 82.5 | | | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | 90 | 90 | 90 | 90 | 80 | | | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | 109% | 104% | 108% | 107% | 103% | | | | | | | |
| 成果3 | 学力定着推進課 | 足立はばたき塾を受講し、第一志望の高校に進学した生徒の割合 | % | 実績値 | 67.9 | 78 | 67.9 | 82.4 | 75.9 | 74.7 | | | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | 80 | 80 | 80 | 80 | 80 | | | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | 98% | 85% | 103% | 95% | 93% | | | | | | | |
| 成果4 | 生活支援推進課 | 居場所を兼ねた学習支援に利用登録のある中学3年生の高校進学率(令和4年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | 100 | 99 | 100 | | | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | 100 | 100 | | | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 99% | 100% | | | | | | | |

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
 戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|-----|---------|---|----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 活動1 | 学力定着推進課 | そだち指導の充足率(そだち指導員の年間指導時間数/そだち指導対象児童に必要な指導時間数) (令和4年度変更指標) | % | 実績値 | - | - | - | 101 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 101% | 100% | 100% |
| 活動2 | 学力定着推進課 | MIMの指導回数 ※ 学校数 平成30年度 69校 令和6年度 67校 | 回 | 実績値 | 3,450 | 3,105 | 3,450 | 3,400 | 3,350 | 3,350 |
| | | | | 目標値 | - | 3,450 | 3,450 | 3,400 | 3,350 | 3,350 |
| | | | | 達成率 | - | 90% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| 活動3 | 教育政策課 | <ul style="list-style-type: none"> 学習支援ボランティアの登録者数<人> 活動件数<回> 充足割合(活動件数/活動予定数(年度当初の調査に対して回答した件数))<%> | 人 | 実績値 | 463 | 267 | 347 | 407 | 362 | 420 |
| | | | | 目標値 | - | 452 | 464 | 476 | 488 | 500 |
| | | | | 達成率 | - | 59% | 75% | 86% | 74% | 84% |
| | | | 回 | 実績値 | 8,404 | 5,153 | 6,090 | 6,344 | 5,995 | 5,737 |
| | | | | 目標値 | - | 7,800 | 8,100 | 8,400 | 8,700 | 9,000 |
| | | | | 達成率 | - | 66% | 75% | 76% | 69% | 64% |
| | | | % | 実績値 | - | - | - | 71 | 74 | 68 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 80 | 90 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 89% | 82% | 68% |
| 活動4 | 教育指導課 | 学習支援員配置の小学校の割合 | % | 実績値 | 100 | 96 | 97 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 96% | 97% | 100% | 100% | 100% |

第3章 評価シート(実績値)

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
 戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|-----|---------|--|----|-----|-----|----|----|-------|-------|-------|
| 活動5 | 学力定着推進課 | 各小学校におけるサマースクールの実施日数 | 日 | 実績値 | - | - | - | 9.9 | 10 | 9.8 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 10 | 10 | 10 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 99% | 100% | 98% |
| 活動6 | 学力定着推進課 | 英語チャレンジ講座実施延べ時間数 (対象生徒数525人) (令和4年度変更指標) | 時間 | 実績値 | - | - | - | 4,992 | 5,172 | 3,664 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 7,000 | 5,600 | 3,360 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 71% | 92% | 109% |
| 活動7 | 学力定着推進課 | 英語マスター講座実施延べ時間数 (対象生徒数:令和5年度まで90人、 令和6年度から120人) (令和4年度変更指標) | 時間 | 実績値 | - | - | - | 4,258 | 4,726 | 6,124 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 5,400 | 5,400 | 6,840 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 79% | 88% | 90% |
| 活動8 | 学力定着推進課 | AIドリルで学習状況を把握し、児童・ 生徒のつまずきに応じて、必要な手立 てを講じている教員の割合 (令和5年度変更指標) | % | 実績値 | - | - | - | - | 69.5 | 70.8 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | 70 | 70 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 99% | 101% |

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
 戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|------|---------|--|----|-----|------|------|------|------|------|------|
| 活動9 | 学力定着推進課 | 中1夏季勉強合宿参加者のうち、事後テストが事前テストの結果を上回った生徒の割合 (令和5年度変更指標) | % | 実績値 | - | - | - | - | 84.4 | 95.8 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | 90 | 90 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 94% | 106% |
| 活動10 | 学力定着推進課 | 足立はばたき塾の年間出席率 (令和5年度変更指標) | % | 実績値 | - | - | - | - | 85.2 | 86.7 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | 87 | 88 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 98% | 99% |
| 活動11 | 生活支援推進課 | 居場所を兼ねた学習支援の年間登録数【平成30年度 7箇所、令和4年度以降 6箇所】 | 人 | 実績値 | 308 | 325 | 345 | 356 | 361 | 369 |
| | | | | 目標値 | - | 330 | 330 | 330 | 360 | 370 |
| | | | | 達成率 | - | 98% | 105% | 108% | 100% | 100% |
| 活動12 | 生活支援推進課 | 生活保護世帯の小・中学生のうち、塾代支援を利用して通塾している小学1年生～中学2年生の割合 | % | 実績値 | 22.6 | 17.8 | 19.3 | 18 | 18.2 | 18.7 |
| | | | | 目標値 | - | 23.8 | 23.8 | 25.3 | 27.7 | 30 |
| | | | | 達成率 | - | 75% | 81% | 71% | 66% | 62% |

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
 戦略3 就学前教育の推進

| | | | |
|--------|--|------|-------------|
| 施策2 | 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み | 記入所属 | 子ども施設指導・支援課 |
| 戦略3 | 就学前教育の推進 | | |
| めざす方向性 | 人間形成の基礎をつくる重要な乳幼児期において、基本的な生活習慣や学びの芽を育む取り組みを推進するとともに、教育内容を豊かにすることを通して子どもの学びの構えを育み、幼児教育から小学校教育への滑らかな移行を図ります。また、教育・保育施設の運営が適正になされるよう、計画的に指導検査や実地調査、巡回訪問、研修を実施し、教育・保育の質の維持・向上に取り組めます。 | | |

戦略の達成度を測る成果指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|-----|-------------|---|----|-----|------|------|------|------|------|------|
| 成果1 | 子ども施設指導・支援課 | 基本的な生活習慣(※1)が身についている小学1年生の割合 | % | 実績値 | 90.6 | 88.4 | 87 | 87.9 | 89.8 | 86.6 |
| | | | | 目標値 | - | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 |
| | | | | 達成率 | - | 98% | 97% | 98% | 100% | 96% |
| 成果2 | 子ども施設指導・支援課 | 教育・保育力向上研修(集合)の受講者アンケート回答者の内、「研修内容を、現場で活用していきたい」と回答した職員の割合(保育士、幼稚園教諭等) (令和4年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | 95.6 | 95.9 | 97.3 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 90 | 90 | 90 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 106% | 107% | 108% |
| 成果3 | 子ども施設指導・支援課 | 指導検査で「文書指摘」または「口頭指導」となった項目が、次の巡回訪問等の際に改善されていた教育・保育施設の割合 | % | 実績値 | 100 | 100 | 100 | 100 | 99 | 99 |
| | | | | 目標値 | - | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 100% | 100% | 100% | 99% | 99% |
| 成果4 | 子ども施設指導・支援課 | 接続期教育研修の受講者アンケート回答者の内、「幼保小連携の重要性を理解できた」と回答した職員の割合(保育士、幼稚園・小学校教諭等) (令和4年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | 94.7 | 92.5 | 97.9 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 90 | 90 | 90 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 105% | 103% | 109% |

※1 基本的な生活習慣の内容…挨拶や返事、姿勢良く座る、静かに話を聞く の3項目

施策2 確かな字力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み
 戦略3 就学前教育の推進

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|---------|---------------------|---|----|-----|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 活動 1 | 子ども施設 指導・支援 課 | 幼児教育研修のうち、教育・保育力 向上研修(集合)への参加職員数(保 育士、幼稚園教諭等) (令和元年度より実施) 目標値=参加職員数[※研修定員数 (令和6年度:3,000人)の7割程度を 想定] | 人 | 実績値 | - | 2,324 | 2,318 | 2,840 | 2,097 | 2,252 |
| | | | | 目標値 | - | 2,100 | 2,100 | 2,100 | 2,100 | 2,100 |
| | | | | 達成率 | - | 111% | 110% | 135% | 100% | 107% |
| 活動 2 | 子ども施設 指導・支援 課 | 巡回訪問実施延べ回数(令和5年度 変更指標) | 回 | 実績値 | - | - | - | - | 665 | 641 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | 488 | 526 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 136% | 122% |
| 活動 3 | 子ども施設 指導・支援 課 | 「足立区教育・保育の質ガイドライン」 を活用した保育実践をしている施設の 割合 | % | 実績値 | 48.1 | 82 | 85 | 85 | 88 | 93 |
| | | | | 目標値 | - | 54.6 | 85 | 87 | 87 | 87 |
| | | | | 達成率 | - | 150% | 100% | 98% | 101% | 107% |
| 活動 4 | 子ども施設 指導・支援 課 | 5歳児が在籍する就学前施設の内、 幼保小連携活動の中であだち幼保小 接続期カリキュラムを活用している園 の割合【令和4年度より指標変更】 | % | 実績値 | - | - | 68.9 | 83.5 | 90.3 | 86.3 |
| | | | | 目標値 | - | - | 90 | 90 | 90 | 90 |
| | | | | 達成率 | - | - | 77% | 93% | 100% | 96% |
| 活動 5 | 子ども施設 指導・支援 課 | 小学校と連携活動を実施した就学前 施設の割合(令和6年度指標名変 更) | % | 実績値 | 86 | 85.8 | 72.6 | 92 | 94 | 88.1 |
| | | | | 目標値 | - | 86.7 | 87.6 | 87.6 | 90 | 90 |
| | | | | 達成率 | - | 99% | 83% | 105% | 104% | 98% |

施策 4 快適に学べる教育施設の整備と運営の充実

| | |
|-----------------------|----|
| 戦略 1 安全で環境に優しい施設整備 | 85 |
| 戦略 2 適正規模・適正配置 | 89 |
| 戦略 3 学校運営支援 | 91 |
| 戦略 4 社会的自立に必要な力の育成・支援 | 95 |

第3章 評価シート(実績値)

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実
 戦略1 安全で環境に優しい施設整備

| | | | |
|--------|--|------|---------------------|
| 施策4 | 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実 | 記入所属 | 学校ICT推進課 学校施設管理課 |
| 戦略1 | 安全で環境に優しい施設整備 | | |
| めざす方向性 | 改築による施設更新や保全工事による長寿命化、設備更新等を計画的に実施することにより、学習・防災機能の両面から快適で安全・安心な施設に整備していくとともに、照明や冷暖房等の設備機器の効率化などを通じて環境対策に取り組んでいきます。 | | |

戦略の達成度を測る成果指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | |
|-----|----------|---|----|-----|------|------|------|------|------|------|
| 成果1 | 学校施設管理課 | 令和2～6年度までの全体保全工事 予定校12校のうち、全体保全工事が完了した学校の割合(令和2年度より指標名変更) | % | 実績値 | - | 0 | 42 | 67 | 75 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | - | 50 | 58 | 75 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | 84% | 116% | 100% | 100% |
| 成果2 | 学校施設管理課 | トイレ洋式化率 | % | 実績値 | 61 | 75.5 | 86.3 | 88.2 | 89.1 | 89.5 |
| | | | | 目標値 | - | 64.2 | 84.6 | 88.1 | 88.5 | 88.5 |
| | | | | 達成率 | - | 118% | 102% | 100% | 101% | 101% |
| 成果3 | 学校施設管理課 | 教室照明のLED化率 | % | 実績値 | 22.1 | 30.8 | 42.7 | 52 | 58.8 | 66.6 |
| | | | | 目標値 | - | 27.2 | 44.7 | 54.9 | 60.8 | 69.6 |
| | | | | 達成率 | - | 113% | 96% | 95% | 97% | 96% |
| 成果4 | 学校ICT推進課 | 普通教室・特別教室のうち、Wi-Fi環境導入が完了した教室の割合(令和4年度新規追加指標) 対象:普通教室及び学校が希望する特別教室 | % | 実績値 | - | - | - | 83.1 | 100 | - |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 83.1 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 100% | 100% | - |

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実
 戦略1 安全で環境に優しい施設整備

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|-----|---------|---|----|-----|------|------|------|------|------|------|
| 活動1 | 学校施設管理課 | 各年の保全工事対象校のうち、工事予定工程が完了した割合 | % | 実績値 | 100 | 0 | 89 | 117 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 0% | 89% | 117% | 100% | 100% |
| 活動2 | 学校施設管理課 | 設備点検を実施した学校の割合 | % | 実績値 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| 活動3 | 学校施設管理課 | 維持補修工事により安全を確保した学校の割合 | % | 実績値 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| 活動4 | 学校施設管理課 | 体育館へのエアコン設置完了校の割合 | % | 実績値 | 1 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | 17.5 | - | - | - | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 571% | - | - | - | - |
| 活動5 | 学校施設管理課 | トイレ改修対象校のうち、洋式化を完了した学校の割合 (平成30年度 32.8%=22校/67校) | % | 実績値 | 32.8 | 56.7 | 94 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | 44 | 94 | 100 | - | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 129% | 100% | 100% | - | - |

第3章 評価シート(実績値)

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実
 戦略1 安全で環境に優しい施設整備

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|---------|--------------|--|----|-----|-----|-----|------|------|------|------|
| 活動 6 | 学校施設 管理課 | 太陽光発電装置の導入校数 | 校 | 実績値 | 17 | 17 | 20 | 21 | 21 | 22 |
| | | | | 目標値 | - | 18 | 20 | 21 | 21 | 22 |
| | | | | 達成率 | - | 95% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| 活動 7 | 学校ICT推 進課 | 各年のWi-Fi環境導入対象教室の うち、Wi-Fi環境導入が完了した教室 の割合 (令和4年度新規追加指標) 対象:普通教室及び学校が希望する 特別教室 | % | 実績値 | - | - | - | 0 | 100 | - |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 0 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 100% | - |

第3章 評価シート(実績値)

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実
 戦略2 適正規模・適正配置

| | | | |
|--------|---|------|---------|
| 施策4 | 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実 | 記入所属 | 学校施設管理課 |
| 戦略2 | 適正規模・適正配置 | | |
| めざす方向性 | 改築による施設更新や保全工事による長寿命化、設備更新等を計画的に実施することにより、学習・防災機能の両面から快適で安全・安心な施設に整備していくとともに、照明や冷暖房等の設備機器の高効率化などを通じて環境対策に取り組んでいきます。 | | |

戦略の達成度を測る成果指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | |
|---------|---------|------------------------------------|----|-----|------|------|------|------|------|------|
| 成果 1 | 学校施設管理課 | 全小・中学校に占める「適正規模校」の割合(令和3年度目標値変更指標) | % | 実績値 | 64.4 | 62.5 | 58.7 | 59.2 | 58.8 | 56.9 |
| | | | | 目標値 | - | 64.7 | 62.5 | 64.1 | 64.4 | 66 |
| | | | | 達成率 | - | 97% | 94% | 92% | 91% | 86% |

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | |
|---------|---------|---|----|-----|----|----|----|----|----|---|
| 活動 1 | 学校施設管理課 | 「適正規模・適正配置のガイドライン」に記載のある地区の実施計画策定数(令和5年度変更指標) | 件 | 実績値 | - | - | - | - | 0 | 0 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | 2 | 4 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | - |

第3章 評価シート(実績値)

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実
 戦略3 学校運営支援

| | | | |
|--------|--|------|--|
| 施策4 | 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実 | 記入所属 | 教育政策課 学力定着推進課 教育指導課 学校支援課 青少年課 |
| 戦略3 | 学校運営支援 | | |
| めざす方向性 | 改築による施設更新や保全工事による長寿命化、設備更新等を計画的に実施することにより、学習・防災機能の両面から快適で安全・安心な施設に整備していくとともに、照明や冷暖房等の設備機器の効率化などを通じて環境対策に取り組んでいきます。 | | |

戦略の達成度を測る成果指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | | R2 | | R3 | | R4 | | R5 | | R6 | | | | |
|-----|----------------|---|----|-----|---|---------|---|------|---|------|---|------|---|------|------|------|---|---|
| 成果1 | 青少年課 | 「足立区学力定着に関する総合調査」で「今住んでいる地域に貢献できるような大人になりたい」に肯定的な回答をした小・中学生の割合(令和元年度より実施) | % | 実績値 | - | R1:63.4 | | 65.2 | | 66 | | 66.9 | | 68.3 | | | | |
| | | | | 目標値 | - | - | | 65 | | 67 | | 69 | | 70 | | | | |
| | | | | 達成率 | - | - | | 100% | | 99% | | 97% | | 98% | | | | |
| 成果2 | 教育指導課 学校支援課 | 教員の1年間の在校等時間の総時間から東京都条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が360時間以下である教員の割合(「足立区立学校における教員の働き方改革実施方針」に基づく) | % | 実績値 | - | 42.5 | | 44.1 | | 39.9 | | 44.3 | | 46.2 | | | | |
| | | | | 目標値 | - | - | | 54 | | 56 | | 59 | | 100 | | | | |
| | | | | 達成率 | - | - | | 82% | | 71% | | 75% | | 46% | | | | |
| 成果3 | 教育政策課 | 「足立区学力定着に関する総合調査」で「1か月に、何冊くらい本(マンガ、雑誌を除く)を読みますか」に「ほとんど読まない」と回答した小・中学生の割合 * 低減指標 (令和6年度変更指標) | % | 実績値 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 30.1 | 41.7 | | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 成果4 | 学力定着推進課 | 「全国学力・学習状況調査」で「読書は好きですか」に肯定的な回答をした小学6年生及び中学3年生の割合(令和6年度変更指標) | % | 実績値 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 成果5 | 学力定着推進課 | 「足立区学力定着に関する総合調査」で「インターネットや図書等から必要な情報を集めて整理できた」に肯定的な回答をした小・中学生の割合(令和6年度変更指標) | % | 実績値 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 65.5 | 60.5 | | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実
戦略3 学校運営支援

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|-----|---------|---|----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 活動1 | 青少年課 | 開かれた学校づくり協議会主催・共催事業の実施回数 | 回 | 実績値 | 2,601 | 1,007 | 369 | 539 | 1,252 | 1,489 |
| | | | | 目標値 | - | 2,668 | 1,600 | 1,600 | 1,600 | 2,000 |
| | | | | 達成率 | - | 38% | 23% | 34% | 78% | 74% |
| 活動2 | 青少年課 | 開かれた学校づくり協議会型コミュニティ・スクールの設置校数 (令和3年度目標値変更指標) | 校 | 実績値 | 10 | 12 | 13 | 13 | 13 | 13 |
| | | | | 目標値 | - | 11 | 14 | 14 | 15 | 15 |
| | | | | 達成率 | - | 109% | 93% | 93% | 87% | 87% |
| 活動3 | 学力定着推進課 | 学校経営計画のヒアリング実施の小・中学校の割合 | % | 実績値 | 100 | 50 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 50% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| 活動4 | 教育指導課 | 部活指導員の充足率(実員/定数(必要数)) | % | 実績値 | - | - | - | - | - | 97.8 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | 85 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | 115% |

第3章 評価シート(実績値)

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実
 戦略3 学校運営支援

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | | | | | |
|------|-------|--|----|-----|-----|------|------|------|------|------|---|---|---|------|------|
| 活動5 | 教育政策課 | 小学生一人あたりの本の年間貸出冊数(※1) (令和6年度指標種別変更) | 冊 | 実績値 | 30 | 39.7 | 40.7 | 45.2 | 46.7 | 47.7 | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | 31 | 33 | 34 | 35 | 45.2 | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | 128% | 123% | 133% | 133% | 106% | | | | | |
| 活動6 | 教育政策課 | 中学校図書館の一人あたりの年間入館回数(※2) (令和6年度指標名変更・指標種別変更) | 回 | 実績値 | - | - | - | - | - | 16.6 | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | 13.5 | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | 123% | | | | | |
| 活動7 | 教育政策課 | 図書や資料を用いて、調べ学習等の授業を実施した教員の割合(令和6年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | - | - | 70 | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | - | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | - | | | | | |
| 活動8 | 教育指導課 | 調べる学習コンクールの参加割合【教育指導課】 (令和6年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | - | - | 96.1 | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | 26.1 | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | 368% | | | | | |
| 活動9 | 教育政策課 | 0~8類の蔵書割合の全校平均値 (令和6年度新規追加指標) | % | | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | |
| | | | | 実績値 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 48.1 | 58.2 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 46.3 | 57.4 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 104% | 101% |
| 活動10 | 教育指導課 | 生活指導員配置の中学校の割合 | % | 実績値 | 94 | 88 | 91 | 87.5 | 94.2 | 100 | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | 95 | 100 | 100 | 100 | 100 | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | 93% | 91% | 88% | 94% | 100% | | | | | |

※1 成果指標2の達成率の算出方法

※2 1年間に1人の生徒が学校図書館に入館した回数の平均値

第3章 評価シート(実績値)

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実
 戦略4 就学環境の整備

| | | | |
|--------|--|------|-----------------------------------|
| 施策4 | 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実 | 記入所属 | 教育指導課 学校支援課 学務課 幼稚園地域保育課 |
| 戦略4 | 社会的自立に必要な力の育成・支援 | | |
| めざす方向性 | 改築による施設更新や保全工事による長寿命化、設備更新等を計画的に実施することにより、学習・防災機能の両面から快適で安全・安心な施設に整備していくとともに、照明や冷暖房等の設備機器の効率化などを通じて環境対策に取り組んでいきます。 | | |

戦略の達成度を測る成果指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|-----|-------|--|----|-----|------|------|------|------|------|------|
| 成果1 | 学務課 | 児童・生徒が関係した交通事故の件数 ※低減目標 | 件 | 実績値 | 13 | 6 | 15 | 10 | 8 | 10 |
| | | | | 目標値 | - | 12 | 5 | 10 | 5 | 5 |
| | | | | 達成率 | - | 194% | 33% | 100% | 63% | 50% |
| 成果2 | 教育指導課 | 日本語適応指導の効果が見られた割合(日本語適応指導講師の所見による) | % | 実績値 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| 成果3 | 学務課 | 希望校に入学した児童・生徒の割合 | % | 実績値 | 99.4 | 97.4 | 99.4 | 99.9 | 99.5 | 99.2 |
| | | | | 目標値 | - | 99.5 | 99.5 | 99.6 | 99.8 | 99.8 |
| | | | | 達成率 | - | 98% | 99% | 100% | 100% | 99% |
| 成果4 | 学務課 | 育英資金の利用者(完済・助成後)を対象にした、育英資金の利用満足度を測るアンケートで肯定的な回答をした割合(令和2年度より実施) | % | 実績値 | - | 69 | 86 | 95 | 91 | 92 |
| | | | | 目標値 | - | - | 70 | 90 | 97 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | 123% | 106% | 94% | 92% |

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実
 戦略4 就学環境の整備

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|-----|-------|--|----|-----|-----|------|------|------|------|------|
| 活動1 | 教育指導課 | セーフティ教室実施の小・中学校の割合 | % | 実績値 | 100 | 0 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 0% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| 活動2 | 教育指導課 | 交通安全教室実施の小学校の割合 | % | 実績値 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| 活動3 | 学務課 | 通学路合同点検(定期点検)の実施回数 | 回 | 実績値 | 17 | 23 | 24 | 24 | 21 | 25 |
| | | | | 目標値 | - | 17 | 25 | 26 | 21 | 23 |
| | | | | 達成率 | - | 135% | 96% | 92% | 100% | 109% |
| 活動4 | 学務課 | 通学路及び放課後活動地域における防犯カメラの設置数 ※ 累計設置台数 (令和4年度新規追加指標) | 台 | 実績値 | - | - | - | 654 | 697 | 745 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 662 | 729 | 764 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 99% | 96% | 98% |
| 活動5 | 学校支援課 | 計画どおりのAED更新台数(屋内設置分) (令和4年度変更指標) | 台 | 実績値 | - | - | - | 104 | 104 | 104 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 104 | - | 104 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 100% | - | 100% |
| 活動6 | 学務課 | AEDを用いた救命講習会の実施校割合 (令和4年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 100% | 100% | 100% |

第3章 評価シート(実績値)

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実
 戦略4 就学環境の整備

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|------|----------|--|----|-----|------|------|------|------|------|------|
| 活動7 | 教育指導課 | 「日本語適応指導講師」及び「あだち日本語学習ルーム」を利用している児童・生徒数(令和6年度指標名変更) | 名 | 実績値 | 154 | 200 | 100 | 189 | 248 | 358 |
| | | | | 目標値 | - | 164 | 170 | 180 | 200 | 215 |
| | | | | 達成率 | - | 122% | 59% | 105% | 124% | 167% |
| 活動8 | 学務課 | 区立小学校に就学申請する外国人児童の割合 | % | 実績値 | 80.1 | 89.6 | 83 | 86.7 | 87.5 | 84.1 |
| | | | | 目標値 | - | 80.4 | 82 | 82 | 82 | 82 |
| | | | | 達成率 | - | 111% | 101% | 106% | 107% | 103% |
| 活動9 | 学務課 | 夜間中学の学級数 | 学級 | 実績値 | 6 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| | | | | 目標値 | - | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| | | | | 達成率 | - | 83% | 83% | 83% | 83% | 83% |
| 活動10 | 学務課 | 小・中学校の新1年生が希望選択票を提出した割合 | % | 実績値 | 97.6 | 96.8 | 96.7 | 93.8 | 92.7 | 93.8 |
| | | | | 目標値 | - | 97.8 | 97.9 | 98 | 98 | 98.5 |
| | | | | 達成率 | - | 99% | 99% | 96% | 95% | 95% |
| 活動11 | 幼稚園地域保育課 | 子育てのための施設等利用給付費受給率(幼稚園)(令和元年10月より実施) | % | 実績値 | - | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | - | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | 100% | 100% | 100% | 100% |
| 活動12 | 学務課 | 育英資金制度の周知件数(「中学・高校・大学への案内」「個別相談会」「イベント会場でのパンフレット配付」等の合計件数) | 件 | 実績値 | 171 | 187 | 206 | 235 | 247 | 243 |
| | | | | 目標値 | - | 179 | 190 | 210 | 245 | 220 |
| | | | | 達成率 | - | 104% | 108% | 112% | 101% | 110% |

施策 5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援

| | |
|----------------------------|-----|
| 戦略 1 多様な体験活動の提供とその充実…………… | 99 |
| 戦略 2 家庭教育支援の充実…………… | 103 |
| 戦略 3 社会的自立に必要な力の育成・支援…………… | 107 |

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
 戦略1 多様な体験活動の提供とその充実

| | | | |
|-----|--------------------------|------|---------------------------------|
| 施策5 | 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援 | 記入所属 | 学力定着推進課 教育指導課 学務課 青少年課 |
| 戦略1 | 多様な体験活動の提供とその充実 | | |

戦略の達成度を測る成果指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | | | | | | |
|-----|------|---|----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 成果1 | 青少年課 | 大学生体験教室・ものづくり体験教室に参加してアンケートに回答した小・中学生のうち、「今回の体験をとおして、これからも新しいことを知ったりチャレンジしたいと思った」と回答した割合（令和2年度より実施） | % | 実績値 | - | 90 | 87 | 89 | 81 | 92 | | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | - | 90 | 90 | 90 | 90 | | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | - | 97% | 99% | 90% | 102% | | | | | | |
| 成果2 | 青少年課 | 「足立区学力定着に関する総合調査」で小学5年生が「地域の行事に参加している」に肯定的な回答をした割合 | % | 実績値 | 56.3 | - | 53.4 | 43.3 | 47.4 | 55.9 | | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | 57.1 | - | 59 | 60 | 61 | | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 73% | 79% | 92% | | | | | | |
| 成果3 | 青少年課 | 「全国学力・学習状況調査」で小学6年生及び中学3年生が「人の役に立つ人間になりたい」に肯定的な回答をした割合（※施策1の再掲） | % | | 小6 | 中3 | | |
| | | | | 実績値 | 93 | 92.3 | - | - | 93.6 | 93.2 | 94.1 | 93.3 | 95.4 | 93.6 | 94.6 | 93.8 |
| | | | | 目標値 | - | - | 93.3 | 92.8 | 93.5 | 93 | 94 | 93.6 | 94.5 | 94 | 95 | 95 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 100% | 100% | 100% | 100% | 101% | 100% | 100% | 99% |

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|-----|-----|--|----|-----|-----|-----|-----|-------|------|------|
| 活動1 | 学務課 | 自然教室における各学校の体験活動数の合計（野菜の収穫、日光彫、田植え、稲刈り、笹団子づくり、磯の生物観察、文化遺産見学、ハイキング等）（※施策1の再掲） | 回 | 実績値 | 905 | 205 | 525 | 1,072 | 928 | 997 |
| | | | | 目標値 | - | 905 | 905 | 905 | 905 | 905 |
| | | | | 達成率 | - | 23% | 58% | 118% | 103% | 110% |

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
 戦略1 多様な体験活動の提供とその充実

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|---------|---------|--|----|-----|------|------|-----|--------|--------|--------|
| 活動 2 | 青少年課 | 青少年課の大学連携事業の全プログラムの提供数 (令和4年度目標値追記指標) | 回 | 実績値 | 25 | 11 | 23 | 29 | 15 | 15 |
| | | | | 目標値 | - | 24 | 27 | 27 | 29 | 16 |
| | | | | 達成率 | - | 47% | 85% | 107% | 52% | 94% |
| | | | 人 | 実績値 | - | - | - | 9,396 | 11,376 | 7,493 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 15,000 | 10,000 | 11,416 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 63% | 114% | 66% |
| 活動 3 | 学力定着推進課 | 大学と連携した留学生交流学习の実施校数 | 校 | 実績値 | 6 | 3 | 2 | 6 | 7 | 6 |
| | | | | 目標値 | - | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| | | | | 達成率 | - | 50% | 33% | 100% | 117% | 100% |
| 活動 4 | 青少年課 | あだち子ども百人一首大会の参加率 | % | 実績値 | 99.1 | 0 | 0 | 97.9 | 66 | 40 |
| | | | | 目標値 | - | 99.3 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 0% | 0% | 98% | 66% | 40% |
| 活動 5 | 教育指導課 | 職場体験を実施している中学校の割合(※施策1の再掲) | % | 実績値 | 100 | 0 | 2.9 | 45.7 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 0% | 3% | 46% | 100% | 100% |
| 活動 6 | 青少年課 | 放課後子ども教室で体験プログラムを実施した小学校の割合 (令和4年度変更指標) | % | 実績値 | - | - | - | 44.1 | 61.2 | 62.7 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 58.8 | 59.7 | 67.1 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 75% | 103% | 93% |

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
 戦略1 多様な体験活動の提供とその充実

成果指標を達成するための活動指標

| No | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|------|------|--|----|-----|-----|------|------|-----|------|------|
| 活動7 | 青少年課 | 青少年問題協議会の開催回数 | 回 | 実績値 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| | | | | 目標値 | - | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | | | | 達成率 | - | 50% | 0% | 50% | 0% | 0% |
| 活動8 | 青少年課 | 青少年委員としてブロックで行う活動の回数 | 回 | 実績値 | 137 | 73 | 153 | 151 | 169 | 170 |
| | | | | 目標値 | - | 140 | 73 | 153 | 153 | 156 |
| | | | | 達成率 | - | 52% | 210% | 99% | 110% | 109% |
| 活動9 | 青少年課 | 青少年対策地区委員会全体の主催事業数 | 事業 | 実績値 | 121 | 41 | 54 | 91 | 108 | 120 |
| | | | | 目標値 | - | 123 | 108 | 108 | 115 | 130 |
| | | | | 達成率 | - | 33% | 50% | 84% | 94% | 92% |
| 活動10 | 青少年課 | 青少年対策地区委員会が実施する中学生以下の子ども参加事業数(令和4年度新規追加指標) | 事業 | 実績値 | - | - | - | 50 | 82 | 92 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 94 | 95 | 96 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 53% | 86% | 96% |
| 活動11 | 青少年課 | ジュニアリーダークラブ(中学生・高校生)の構成員数 | 人 | 実績値 | 30 | 74 | 74 | 64 | 76 | 90 |
| | | | | 目標値 | - | 42 | 80 | 80 | 80 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | 178% | 93% | 80% | 95% | 90% |

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
 戦略1 多様な体験活動の提供とその充実

成果指標を達成するための活動指標

| No | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|--------------|------|------------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 活動 1 2 | 青少年課 | ジュニアリーダー研修会の参加者数 | 人 | 実績値 | 560 | 203 | 64 | 303 | 290 | 354 |
| | | | | 目標値 | - | 575 | 250 | 480 | 310 | 650 |
| | | | | 達成率 | - | 35% | 26% | 63% | 94% | 54% |
| 活動 1 3 | 青少年課 | 子ども会育成者の研修会実施回数 | 回 | 実績値 | 22 | 0 | 0 | 17 | 16 | 16 |
| | | | | 目標値 | - | 22 | 22 | 22 | 19 | 23 |
| | | | | 達成率 | - | 0% | 0% | 77% | 84% | 70% |

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
 戦略2 家庭教育支援の充実

| | | | |
|-----|--------------------------|------|----------------------------|
| 施策5 | 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援 | 記入所属 | 子ども施設運営課 子ども政策課 青少年課 |
| 戦略2 | 家庭教育支援の充実 | | |

戦略の達成度を測る成果指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | |
|-----|-------------|---|----|-----|------|------|------|------|---------|--------|
| 成果1 | 子ども政策課 | 早寝・早起き・朝ごはんカレンダーの取り組み園の保護者アンケートで、「早寝・早起き・朝ごはんをこころがけるようになった」と回答した方の割合(令和2年度より設問追加) | % | 実績値 | - | 68.3 | 72.2 | 88.2 | 84.2 | 86.8 |
| | | | | 目標値 | - | - | 65 | 73 | 90 | 90 |
| | | | | 達成率 | - | - | 111% | 121% | 94% | 96% |
| 成果2 | 子ども施設指導・支援課 | 基本的な生活習慣が身についている小学1年生の割合(※施策2の再掲) | % | 実績値 | 90.6 | 88.4 | 87 | 87.9 | 89.8 | 86.6 |
| | | | | 目標値 | - | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 |
| | | | | 達成率 | - | 98% | 97% | 98% | 100% | 96% |
| 成果3 | 子ども政策課 | 「子育て仲間づくり活動」の保護者アンケートで、「学習活動や交流活動を通して子育ての不安や孤立感の軽減につながった」と回答した方の割合(令和4年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | 91 | 92.7 | 98.2 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 65 | 95 | 95 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 140% | 98% | 103% |
| 成果4 | 青少年課 | 家庭教育支援講座の受講者を対象としたアンケートにおいて、「今後に生かせると思う」に肯定的な回答をした割合(令和2年度より実施) | % | 実績値 | - | 100 | 94 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 目標値 | - | - | 65 | 85 | 90 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | 145% | 118% | 111% | 100% |
| 成果5 | 青少年課 | 「あだち家族ふれあいの日」利用者数(令和5年度新規追加指標) | 人 | 実績値 | - | - | - | - | 72,480 | 72,978 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | 103,300 | 80,551 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 70% | 91% |

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
 戦略2 家庭教育支援の充実

戦略の達成度を測る成果指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|---------|------|--|----|-----|-----|----|----|----|----|------|
| 成果 7 | 青少年課 | 親子科学体験講座参加者アンケートで「今回の体験から、これからも新しいことにチャレンジしてみようと思った」と回答した方の割合(令和5年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | - | 90 | 92 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | 80 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | 115% |

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|---------|-------------|---|----|-----|------|------|------|------|------|------|
| 活動 1 | 子ども政策課 | 早寝・早起き・朝ごはんカレンダーに取り組む園の割合 ※4・5歳児の在籍園に限る | % | 実績値 | 73.1 | 71 | 73 | 72 | 47.1 | 0 |
| | | | | 目標値 | - | 76.5 | 76.5 | 80 | 80 | 93.5 |
| | | | | 達成率 | - | 93% | 95% | 90% | 59% | - |
| 活動 2 | 子ども政策課 | 早寝・早起き・朝ごはんカレンダーに取り組む小学校の割合(令和2年度より実施) ※小学1年生を対象 | % | 実績値 | - | 100 | 52.2 | 65 | 59.7 | 62.7 |
| | | | | 目標値 | - | - | 50 | 60 | 70 | 100 |
| | | | | 達成率 | - | - | 104% | 108% | 85% | 63% |
| 活動 3 | 子ども施設指導・支援課 | 幼児教育の取組みに関する保護者等への啓発活動(SNS投稿回数) (令和4年度変更指標) | 回 | 実績値 | - | - | - | 8 | 9 | 8 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 6 | 6 | 6 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 133% | 150% | 133% |

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
 戦略2 家庭教育支援の充実

成果指標を達成するための活動指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|-----|--------|--|----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|
| 活動4 | 子ども政策課 | 「子育て仲間づくり活動」を実施した団体数 (令和4年度目標値追記指標) | 団体 | 実績値 | 46 | 4 | 7 | 10 | 13 | 10 |
| | | | | 目標値 | - | 48 | 48 | 48 | 31 | 60 |
| | | | | 達成率 | - | 8% | 15% | 21% | 42% | 17% |
| | | | 回 | 実績値 | - | - | - | 24 | 39 | 25 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | 145 | 145 | 180 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | 17% | 27% | 14% |
| 活動5 | 子ども政策課 | 幅広い年代や異なる教育・保育子育て施設を利用している保護者の交流会等の実施回数(令和6年度新規追加指標) | 回 | 実績値 | - | - | - | - | - | 2 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | 2 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | 100% |
| 活動6 | 青少年課 | 家庭教育支援講座の実施数【延べ人数】 | 回 | 実績値 | 15 | 5 | 3 | 4 | 4 | 4 |
| | | | | 目標値 | - | 16 | 16 | 16 | 16 | 5 |
| | | | | 達成率 | - | 31% | 19% | 25% | 25% | 80% |
| | | | 人 | 実績値 | 79 | 19 | 19 | 17 | 33 | 59 |
| | | | | 目標値 | - | 74 | 86 | 86 | 86 | 50 |
| | | | | 達成率 | - | 26% | 22% | 20% | 38% | 118% |
| 活動7 | 青少年課 | あだち家族ふれあいの日に関する家族への啓発活動(SNS投稿回数) (令和5年度新規追加指標) | 回 | 実績値 | - | - | - | - | 9 | 11 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | 10 | 12 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 90% | 92% |
| 活動8 | 青少年課 | 親子科学体験講座実施回数 (令和5年度新規追加指標) | 回 | 実績値 | - | - | - | - | 38 | 38 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | 38 | 38 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 100% | 100% |
| | | | 名 | 実績値 | - | - | - | - | 505 | 428 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | 540 | 540 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 94% | 79% |

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
 戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援

| | | | |
|-----|--------------------------|------|-----------------------------------|
| 施策5 | 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援 | 記入所属 | 教育指導課 環境政策課 子どもの貧困対策・若年者支援課 |
| 戦略3 | 社会的自立に必要な力の育成・支援 | | |

戦略の達成度を測る成果指標

| No. | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | | R2 | | R3 | | R4 | | R5 | | R6 | | |
|-----|-----------------|---|----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--------|------|------|
| | | | | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | |
| 成果1 | 教育指導課 | 「足立区学力定着に関する総合調査」で「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした割合 | % | 実績値 | 86 | 74.3 | - | - | 86 | 72.2 | 84.6 | 69.7 | 87.8 | 70.7 | 88 | 71.1 |
| | | | | 目標値 | - | - | 86.5 | 75.3 | 86.7 | 75.3 | 87.2 | 76.9 | 88 | 78 | 89 | 78 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 99% | 96% | 97% | 91% | 100% | 91% | 99% | 91% |
| 成果2 | 教育指導課 | 「全国学力・学習状況調査」で「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」に肯定的な回答をした割合 | % | 実績値 | 49.4 | 36.9 | - | - | 46.7 | 39.3 | 49 | 35.4 | 73.3 | 60.7 | 77.1 | 71.3 |
| | | | | 目標値 | - | - | 51.2 | 39.1 | 51.2 | 39.1 | 54.4 | 42.8 | 56 | 46 | 60 | 50 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 91% | 101% | 90% | 83% | 131% | 132% | 129% | 143% |
| 成果3 | 子どもの貧困対策・若年者支援課 | 高校生世代の居場所型学習支援の利用者アンケート回答者の内、「ここでの経験を今後に生かして、困難なことがあっても夢や希望の実現に向かって、チャレンジしてみようと思う」に肯定的な回答をした利用者の割合(令和5年度新規追加指標) | 人 | 実績値 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 61.1 | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 80.0 | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 76% | |
| 成果4 | 子どもの貧困対策・若年者支援課 | 足立ミライゼミを受講し、第一志望の大学に合格した生徒の割合(令和5年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 70(※1) | | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | | |

※1 令和7年度に卒業生が出るため本指標の目標値は令和7年度のものとなる。

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
 戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援

戦略の達成度を測る成果指標

| No | 所属 | 指標名 | 単位 | H30 | | R2 | | R3 | | R4 | | R5 | | R6 | | |
|-----|-------|--|----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| | | | | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | 小 | 中 | |
| 活動1 | 教育指導課 | キャリア教育支援事業の事業参加児童・生徒の割合 (令和5年度変更指標) ※平成30年度までは小学校のみが対象で、令和元年度以降は小・中学校が対象 | % | 実績値 | - | - | - | - | - | 85.4 | 92.9 | 92.9 | | | | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | 100 | 95 | 100 | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 85% | 98% | 93% | | | | | |
| 活動2 | 教育指導課 | キャリア教育研修会の参加校割合 (令和6年度変更指標) | % | 実績値 | - | - | - | - | - | - | - | 100 | | | | |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | - | 100 | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | - | 100% | | | | | |
| 活動3 | 教育指導課 | 職場体験を実施している中学校の割合 (※施策1及び戦略1の再掲) | % | 実績値 | 100 | - | 2.9 | 45.7 | 100 | 100 | | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | - | 3% | 46% | 100% | 100% | | | | | | |
| 活動4 | 教育指導課 | 租税教室開催の小・中学校の割合 | % | 実績値 | 100 | 48.5 | - | - | 95.7 | 25.7 | 98.5 | 34.3 | 98.5 | 40 | 100 | 50 |
| | | | | 目標値 | - | - | 100 | 50.4 | 100 | 50.4 | 100 | 52.9 | 100 | 55.5 | 100 | 60 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 96% | 51% | 99% | 65% | 99% | 72% | 100% | 83% |
| 活動5 | 教育指導課 | 税についての作文に取り組んでいる中学校の割合 | % | 実績値 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | | | | | |
| | | | | 目標値 | - | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | | | | | | |
| | | | | 達成率 | - | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | | | | | | |

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援
 戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援

戦略の達成度を測る成果指標

| No | 所属 | 指標名 | 単位 | | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|-----|-----------------|--|----|-----|-----|----|------|------|------|------|
| 活動6 | 教育指導課 | 教員を対象にした消費者教育に関する研修会の実施回数 | 回 | 実績値 | 2 | 0 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | | | | 目標値 | - | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | | | | 達成率 | - | 0% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| 活動7 | 環境政策課 | 小・中学校環境学習出前講座の実施回数(令和4年度より指標変更) | 回 | 実績値 | - | - | 48 | 79 | 95 | 108 |
| | | | | 目標値 | - | - | 50 | 55 | 100 | 105 |
| | | | | 達成率 | - | - | 96% | 144% | 95% | 103% |
| 活動8 | 子どもの貧困対策・若年者支援課 | 高校生世代の居場所型学習支援事業の年間利用登録者数(令和5年度新規追加指標) | 人 | 実績値 | - | - | - | - | 29 | 35 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | 50 | 50 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | 58% | 70% |
| 活動9 | 子どもの貧困対策・若年者支援課 | 足立ミライゼミの全講座の平均出席率(令和5年度新規追加指標) | % | 実績値 | - | - | - | - | 79.2 | 79.2 |
| | | | | 目標値 | - | - | - | - | - | 80 |
| | | | | 達成率 | - | - | - | - | - | 99% |